

令和4年度における府中市教育委員会の
権限に属する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価に係る報告書

令和5年7月
府中市教育委員会

目 次

第 1 府中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び 評価の実施について	1
第 2 点検及び評価の見直し	2
第 3 令和 4 年度の府中市教育委員会の活動概要	3
第 4 令和 4 年度の府中市教育委員会の主な取組の点検及び評価	12
第 5 点検及び評価に関する有識者からの意見	66
(資料) 府中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検 及び評価の実施に関する要綱	69

第1 府中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされています。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

この規定を受け、府中市教育委員会においても、主要な施策や事務事業の取組状況について、点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図ります。また、点検及び評価の結果を議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たしていくものです。

2 実施内容

- (1) 第7次府中市総合計画及び第3次府中市学校教育プランに定める令和4年度から令和7年度までの府中市教育委員会の主な取組を対象とし、点検及び評価を行います。
- (2) 点検及び評価は、前年度の取組及び取組にひもづく事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の方向性を示すものとし、毎年1回実施します。
- (3) 取組及び取組にひもづく事業の進捗状況を取りまとめ、教育に関して学識経験を有する者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行います。
- (4) 学識経験者からの公正な意見を聴取し、点検及び評価の客観性を確保するため、点検及び評価に関する有識者を教育委員会が委嘱します。
- (5) 教育委員会において、点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を府中市議会に提出します。また、報告書はホームページ等で公表します。

第2 点検及び評価の見直し

第7次府中市総合計画及び第3次府中市学校教育プランの初年度を契機として、各々の進行管理との整合を図るため、次のとおり点検及び評価の方式を見直しました。

主な取組の選定方法	
見直し前	見直し後
<ul style="list-style-type: none"> ・府中市教育委員会の主な取組を毎年度選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・第7次府中市総合計画及び第3次府中市学校教育プランにおける施策から、両計画の計画期間である令和4年度から令和7年度までの継続した取組として選定
評価方法	
見直し前	見直し後
<ul style="list-style-type: none"> ・A～Cの自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準は、取組及び事業の進捗状況によりA～Dの4段階とし、併せて具体的な評価理由を記載 ・客観的視点で評価を行うため、各取組において目標とする成果指標を設定 ・成果指標を設定できない取組については、当該年度の具体的な取組内容に基づいた自己評価 ・取組の評価は、各取組にひもづく事業の評価に基づいた総合評価
有識者からの意見聴取	
見直し前	見直し後
<ul style="list-style-type: none"> ・重点的・積極的に行った取組について意見聴取 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての取組について意見聴取

第3 令和4年度の府中市教育委員会の活動概要

1 活動概要

(1) 全体について

府中市教育委員会は、府中市長が府中市議会の同意を得て任命した教育長と4人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理し、執行しています。教育長の任期は3年、委員の任期は4年で、原則として毎月1回定例会を開催するほか、必要に応じて臨時会、視察等を行っています。

令和4年度の主な活動としては、定例会を12回、臨時会を4回開催し、議案47件、報告・連絡75件について審議等を行ったほか、市長の主宰により3回開催された総合教育会議においては、市長と教育施策について協議する中で、府中市の教育の課題や方向性の共有を図ることができました。また、市立小・中学校への訪問、児童・生徒等に対する表彰などを実施したほか、各委員が学校行事等の参観や関係機関による研修等に参加しました。

府中市教育委員会では、府中市の教育行政の基本となる教育目標や第7次府中市総合計画のほか、第3次府中市学校教育プラン、第3次府中市生涯学習推進計画などの個別計画に基づき、総合的な教育施策を推進しています。

新型コロナウイルス感染症への対応については、国や都の動向を踏まえ、引き続き感染防止対策を講じながら、各種行事等を可能な範囲で実施しました。

(2) 学校教育について

平成28年度から実施してきた「オリンピック・パラリンピック教育」と、長年実施している「ふるさと学習」の理念と実践をいかして、令和4年度から新たに「未来へつなぐ府中2020レガシー」として、府中市の自然や文化、地域の社会資源等を活用し、各学校で共生社会の実現に向けた教育活動に取り組みました。この取組の推進に当たっては、市独自の予算を全ての市立小・中学校に配当し、各学校において地域の様々な社会資源等と連携した独自性の高い教育活動を展開することができました。

I C Tの活用に関しては、これまでの指導方法の実践と、一人1台のタブレット端末の活用を組み合わせ、児童・生徒の個別最適な学びの充実を図りました。また、タブレット端末は、持ち帰りによる家庭学習のほか、学習課題や授業の配信による不登校支援など、新たな活用も図りました。

特別支援教育については、障害の有無に関わらず、児童・生徒一人一人が持つ能力を最大限に伸ばせる環境を確保するため、児童・生徒やその保護者、地域にとって必要な特別支援教育に関連する施策を取りまとめた第4次府中市特別支援教育推進計画を策定しました。

不登校の対策に関しては、児童・生徒の実態に配慮した特別な教育課程を編成して教育を実施する不登校特例校の設置に向け、基本的な考え方を取りまとめました。

学校給食センターについては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止していた学校訪問や施設見学の受入れを感染症対策に十分配慮しながら再開し、

食育を推進するとともに、成長期の児童・生徒の健康増進と体力の向上を図るため、安全・安心でおいしい学校給食を提供しました。

学校施設の整備及び維持管理については、小学校6校、中学校4校においてトイレ改修工事を行ったほか、中学校2校において外壁及び屋上防水等改修工事を行いました。

学校施設の老朽化対策については、府中市学校施設改築・長寿命化改修計画において、第一期改築実施校と位置付けた府中第八小学校及び府中第一中学校の新校舎及び新体育館がしゅん工しました。第二期改築実施校と位置付けた府中第三小学校及び府中第六小学校では、実施設計が完了しました。

また、今後の各学校の児童・生徒数の増減に対応し、児童・生徒にとって安全・安心で、より良い教育環境の確保及び充実を図るため、府中市学校適正規模・適正配置検討協議会を開催し、令和3年度に策定した府中市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方に基づいて、府中市の現状把握や問題点について検討を重ねました。

(3) 社会教育について

社会教育分野では、生涯学習センターでの定期講座を始め、オンラインを併用した家庭教育学級の実施、心身障害児・者余暇学習支援事業など、コロナ禍においても、市民が充実して多様な学習活動を実施できるよう努めました。また、生涯学習センターの新たな指定管理者を指定しました。

図書館では、10月から第2期PFI事業者との運営を開始し、施設の改修工事及びシステムの更新・機器入替のため、中央図書館は令和4年10月1日から令和5年2月28日まで、地区図書館は令和5年2月1日から同月28日まで休館し、令和5年3月にリニューアルオープンしました。また、リニューアルオープンに合わせて、ふちゅう電子図書館や、インターネットを介して学習室・研究室の予約ができる座席申込システムの導入など、新たなサービスを開始しました。

美術館では、秋の大型展覧会アーツ・アンド・クラフツ展が、開館以来5番目に多い来館者数を記録したことを始め、各企画展とも好評を博しました。また、施設面では、大規模改修に向けて改修内容検討調査委託を実施しました。

文化財については、歴史的に貴重な「内藤家住宅」が東京都指定有形文化財の指定を受けました。また、郷土の森博物館において、特別展「多摩川のアユミ」や「あじさいまつり」、「梅まつり」などの各種事業を実施し、来場者数が年間35万人を超えました。

市史編さん事業については、7分野の専門部会による資料収集調査と研究分析を継続するとともに、「新 府中市史 近世資料編 中」、「新 府中市史 近世資料編 下」、「新 府中市史研究 武蔵府中を考える 第5号」の3種類の刊行物の編集と発行を行いました。

スポーツ施設においては、3年ぶりに夏季期間における屋外プールを開催したほか、地域体育館（白糸台及び本宿）空気調和設備設置工事を始め、西府庭球場改修工事などを実施し、利用者が安全かつ快適に活動できる環境の整備に努めました。また、朝日体育館及び地域プール（白糸台、新町、武蔵台及び小柳）の解体工事を実施しました。

2 教育委員会の構成（令和5年3月31日現在）

職名	氏名	任期
教 育 長	酒 井 泰	自 令和 3. 4. 1 至 令和 6. 3.31
委 員	日 野 佳 昭	自 令和 4. 4. 1 至 令和 8. 3.31
委 員	平 原 保	自 令和 3. 4. 1 至 令和 7. 3.31
委 員	新 島 香	自 平成 31. 4. 1 至 令和 5. 3.31
委 員	増 淵 達 夫	自 令和 2. 4. 1 至 令和 6. 3.31

3 主な教育委員会活動

- (1) 教育施策の充実が図られるよう、現状を把握するとともに、教育現場の校長や施設管理者との情報交換を行うため、教育施設等に訪問しました。

<訪問先>

府中第二小学校、武蔵台小学校、新町小学校、小柳小学校、府中第一中学校、教育センター、総合体育館

- (2) 東京都市町村教育委員会連合会、東京都市教育長会等に参加し、情報収集や近隣市等との情報交換等を行い、教育施策への反映に努めました。

<東京都市教育委員会連合会>

東京都市町村教育委員会連合会総会・理事会・研修会、関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会・研修会、市町村教育委員会教育長・教育委員研究協議会

<東京都市教育長会>

東京都市教育長会総会・定例会・研修会、関東都市教育長協議会総会

<その他>

令和4年度教育施策連絡協議会

- (3) 教育委員会広報「ふちゅうの教育」を年3回発行し、府中市教育委員会の取組について、市民への周知に努めました。

4 教育委員会の開催状況

令和4年度の教育委員会の開催状況は、次のとおりです。

令和4年第4回教育委員会定例会（令和4年4月21日）

区分	件名
議案	令和5年度使用教科用図書採択に関する方針について 府中市文化財保護審議会諮問事項等について
報告・連絡	令和4年度の府中市給付奨学生及び貸付奨学生の認定状況等について 令和4年度児童・生徒数報告集計表について 令和3年度セカンドスクール実施結果について 令和4年度府中市立学校（園）教育課程届出の概要について 府中市美術館美術鑑賞教室の実施について

令和4年第4回教育委員会臨時会（令和4年4月25日）

区分	件名
議案	府中市立学校副校長の東京都教育委員会への任命内申について
報告・連絡	なし

令和4年第5回教育委員会定例会（令和4年5月19日）

区分	件名
議案	府中市学校適正規模・適正配置検討協議会規則の一部を改正する規則
報告・連絡	郷土の森博物館「あじさいまつり」の開催について 郷土の森博物館プラネタリウム夏番組について 第31回市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催について 令和4年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）に対する文部科学大臣表彰の受賞について 企画展『『発見された日本の風景』連携展 孤高の高野光正コレクションが語る ただいま やさしき明治』の開催について

令和4年第6回教育委員会定例会（令和4年6月16日）

区分	件名
議案	府中市図書館協議会委員の委嘱について
報告・連絡	令和3年度における府中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に係る報告書（案）について 令和3年度学校経営報告について 令和3年度青少年音楽事業について 令和3年度生涯学習関連事業について 令和3年度文化財保護・普及事業等について 令和3年度社会体育事業について 令和3年度図書館利用状況について 令和3年度美術館関連事業について 第63回府中市民体育大会夏季大会（水泳・乗馬競技会）の開催について 令和4年度プール開催日程について

令和4年第7回教育委員会定例会（令和4年7月21日）

区分	件名
議案	令和3年度における府中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に係る報告書について 府中市学校適正規模・適正配置検討協議会委員の委嘱について 府中市学校適正規模・適正配置検討協議会諮問事項等について 府中市図書館協議会委員の変更について
報告・連絡	第17回学校施設老朽化対策特別委員会開催報告について 教育課題の解決に向けた資料の配布について 第37回府中市青少年音楽祭の開催について 郷土の森博物館児童・生徒向け夏のイベント等の開催について 郷土の森博物館「教員のための博物館の日」の開催について 「宇宙の日」記念全国小・中学生作文絵画コンテスト作品募集について 東京2020パラリンピック1周年記念関連イベントについて 第63回府中市民体育大会秋季大会の開催について 寄附の採納について 夏休みのお薦め本のリストについて 企画展「夏休みチャレンジ アートのたねをみつけよう！」の開催について

令和4年第8回教育委員会定例会（令和4年8月18日）

区分	件名
議案	令和4年度一般会計補正予算（第2号）に対する意見の聴取について 令和4年度府中市立学校給食センター運営審議会委員の委嘱について 令和5年度使用教科用図書の採択について
報告・連絡	第29回府中市生涯学習フェスティバルの実施について

令和4年第9回教育委員会定例会（令和4年9月8日）

区分	件名
議案	府中市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則
報告・連絡	市民文化の日について 郷土の森博物館プラネタリウム秋番組について 第26回みんなのスポーツ day の開催について 絵本だいすきおはなしキャラバンについて 特集展示「みんなに読書のよろこびを」について 企画展「アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで」の開催について

令和4年第5回教育委員会臨時会（令和4年9月13日）

区分	件名
議案	府中市教育委員会事務局職員の人事異動について
報告・連絡	なし

令和4年第10回教育委員会定例会（令和4年10月20日）

区分	件名
議案	なし
報告・連絡	寄附の採納及び感謝状の贈呈について 第18回学校施設老朽化対策特別委員会開催報告について 令和4年度日光林間学校実施結果について いじめの重大事態に関する報告について 第4次府中市特別支援教育推進計画（案）の作成について 市史跡旧陸軍調布飛行場白糸台 ^{えんたいごう} 掩体壕の特別公開について 市史刊行物の発行について 第4回府中市ポッチャ大会の開催について 府中市指定有形文化財の保存及び活用に伴う土地の公有地化に向けた取組について

令和4年第11回教育委員会定例会（令和4年11月17日）

区分	件名
議案	府中市教育委員会における情報通信技術を活用した行政の推進に関する規則 府中市美術品収集選定委員会委員の委嘱について
報告・連絡	寄附の採納について 郷土の森博物館企画展・プラネタリウム新番組等について ラグビーのまち府中デーの開催について 第76回府中駅伝競走大会の開催について 府中市美術館運営協議会答申書について

令和4年第12回教育委員会定例会（令和4年12月15日）

区分	件名
議案	いじめ防止対策推進条例（仮称）の制定の申出について 府中市美術館運営協議会委員の委嘱について 府中市生涯学習センターにおける指定管理者の指定について
報告・連絡	寄附の採納及び感謝状の贈呈について 令和4年度セカンドスクール実施結果について 武蔵府中熊野神社古墳ライトアップについて 市史刊行物『市史編さんだより』第12号の発行について 図書館全館休館に伴う図書貸出冊数の臨時的増量等について 企画展「諏訪敦 眼窩裏の火事」の開催について

令和5年第1回教育委員会定例会（令和5年1月19日）

区分	件名
議案	臨時代理による処理の承認を求めることについて（博物館法の一部改正に伴う引用条項の変更に係る条例の改正の申出について） 令和5年度予算に対する意見の聴取について 令和4年度府中市教育委員会表彰について 府中市教育委員会事務局職務権限規程の一部を改正する規程 令和5年度学校医等の委嘱について 令和5年度使用教科用図書（特別支援学級用）採択の一部変更について 府中市いじめ防止基本方針について 第4次府中市特別支援教育推進計画について
報告・連絡	令和4年度から令和7年度までの府中市教育委員会における取組について 第19回学校施設老朽化対策特別委員会開催報告について 令和5年度社会教育施設の臨時休館日等について 「ルミエール府中 リニューアルオープンイベント」の開催について 郷土の森「梅まつり」の開催について 第8回ウォーキング大会「歩いて知ろうわがまち府中！」の開催について

令和5年第1回教育委員会臨時会（令和5年2月6日）

区分	件名
議案	令和4年度一般会計補正予算（第7号）に対する意見の聴取について 府中市立学校校長及び副校長の東京都教育委員会への任命内申について
報告・連絡	なし

令和5年第2回教育委員会臨時会（令和5年2月14日）

区分	件名
議案	府中市立学校校長及び副校長の東京都教育委員会への任命内申の一部変更について
報告・連絡	なし

令和5年第2回教育委員会定例会（令和5年2月16日）

区分	件名
議案	令和5年度府中市美術館企画展観覧料について
報告・連絡	郷土の森博物館プラネタリウム「学習投映」の特別一般公開について 市史刊行物の発行について あすチャレ！運動会の開催について 企画展「春の江戸絵画まつり 江戸絵画お絵かき教室」の開催について

令和5年第3回教育委員会定例会（令和5年3月23日）

区分	件名
議案	府中市教育委員会が保有する個人情報の保護に関する規則 府中市立幼稚園の廃園に伴う関係規則の整理に関する規則 府中市立幼稚園の廃園に伴う関係規程の整理に関する規程 府中市教育委員会事務局職務権限規程の一部を改正する規程 府中市学校施設老朽化対策推進協議会規則の一部を改正する規則 令和5年度学校歯科医の変更について 令和5年度府中市立学校給食センター産業医の委嘱について 府中市教育委員会いじめ問題対策委員会規則 令和6年度使用教科用図書採択に関する方針について 府中市立府中第五小学校における学校運営協議会の委員の任命について 府中市立府中第二中学校における学校運営協議会の委員の任命について 府中市立府中第五中学校における学校運営協議会の委員の任命について 令和5年度府中市立学校産業医の委嘱について 府中市生涯学習審議会委員の委嘱について 府中市スポーツ推進委員の委嘱について 府中市教育委員会事務局職員の人事異動について
報告・連絡	寄附の採納及び感謝状の贈呈について 府中市生涯学習審議会答申について 郷土の森博物館プラネタリウム春番組について 寄附の採納について 寄附の採納について 「こども府中はかせ13」の発行について 「子ども読書の日」の取組について

第4 令和4年度の府中市教育委員会の主な取組の点検及び評価

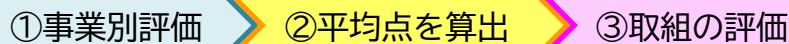
1 点検及び評価の手法について

第7次府中市総合計画及び第3次府中市学校教育プランに定める令和4年度から令和7年度までの府中市教育委員会の主な取組を対象とし、「成果指標」、「評価」、「課題・今後の展開」に分けて、各取組の点検及び評価を行います。この取組にひもづく主な事業について、関連する実績を可能な限り数値で把握するとともに、数値化できない内容についても、当該年度の取組状況により成果を確認し、「事業別評価等」を行います。

この事業別評価、成果指標等を基に、令和4年度の評価において各取組の総合評価を4段階で行うとともに、評価理由及び課題・今後の展開を示しています。事業別評価等では、各取組にひもづく事業別の評価・評価理由及び今後の方向性を示しています。A～Dの評価については、次の評価基準によります。

2 評価方法及び評価基準

まず当該年度の事業別の評価を行い、その平均評価点数を基に、取組の評価を行います。



① 事業別評価を行う

評価	事業の進捗状況	評価点数
A	事業を拡充して実施できた。	3点
B	事業を予定通り実施できた。	2点
C	事業を十分に実施できなかった。	1点
D	事業を実施できなかった。	0点

② ①の平均点を算出

③ 取組評価を行う

評価	取組の進捗状況	「事業別評価等」の平均評価点数
A	取組を拡充して実施できた。	2.5点以上
B	取組を予定通り実施できた。	1.5点以上2.5点未満
C	取組を十分に実施できなかった。	1.5点未満
D	取組を実施できなかった。	0点

※ 点数のみで評価を決定することが適当でないとは判断した場合には、評価シートにその理由を付記した上で評価することとします。

(例) 事業1：A（3点）、事業2：B（2点）、事業3：B（2点）の場合

☞ 取組評価はB（平均評価点数2.3点）

4 有識者意見

今後の事業展開の参考とするため、有識者から点検及び評価に対する意見を聴取し、掲載しています。各取組の評価シートに取組別の意見を掲載するほか、点検及び評価全体に対する意見を「第5 点検及び評価に関する有識者からの意見」に掲載しています。

◆有識者の構成(令和5年6月7日現在)

(敬称略)

氏名	現職	備考
小林 幹夫	明星大学 客員教授 立川市いじめ防止対策審議会会長	元 新宿区立戸塚第一小学校長
秋山 純子	学校法人光塩女子学園評議員 (光塩女子学院幼稚園 園長補佐) 府中市人権擁護委員	元 三鷹中央学園三鷹市立第四中学校長
岡田 昭人	東京外国語大学大学院 教授	元 府中市文化施設における指定 管理者候補者選定委員会委員長

■令和4年度から令和7年度までの府中市教育委員会における取組一覧
(取組 No. 1～11)

取組 No.	取組名	事業 No.	主な事業
1	学習指導等の充実	1-1	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着
		1-2	生命を大切にできる心や他の人を思いやる心などを育む教育の充実
		1-3	健康で安全に生活する力を育む教育
		1-4	学びと育ちの視点を踏まえた義務教育9年間の教育課程と指導の充実
2	特別支援教育の充実	2-1	学習環境の改善と整備
		2-2	交流・共同学習の実施
		2-3	教員の専門性の向上
3	学校組織・人材の支援	3-1	教員の指導力向上
		3-2	教員の働き方改革の推進
		3-3	学校の組織力の強化
		3-4	いじめ防止対策の徹底（学校における取組）
		3-5	地域との連携強化
4	教育相談・教育支援	4-1	就学相談や教育相談の充実
		4-2	個に応じたきめ細やかな支援の実施
		4-3	いじめ防止対策の徹底（教育委員会における取組）
5	学びを確保するための経済的支援	5-1	就学援助の実施
		5-2	奨学金制度の実施
6	子供の健康の管理	6-1	定期健康診断の実施
		6-2	保健指導の実施
7	学校施設の老朽化への対応	7-1	校舎等の改築
		7-2	誰もが利用しやすい学校施設の整備
		7-3	地域コミュニティの拠点となる学校施設の整備
		7-4	将来の人口動態に対応した学校施設の整備
8	学校施設の整備	8-1	経年劣化に伴う大規模改修
		8-2	全市的な施策として短期間で実施すべき大規模改修
9	教育財産の管理と活用	9-1	教材等の整備
		9-2	学校施設の維持管理
		9-3	子供の安全と安心を支える様々な予防策
		9-4	教育関連施設の管理と活用
10	学校給食の運営	10-1	安全・安心でおいしい給食の提供
		10-2	学校給食センターの管理運営
11	市立幼稚園の運営	11-1	市立幼稚園運営事業（令和4年度のみ）

評価の推移								担当課
令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		
取組評価	事業別評価	取組評価	事業別評価	取組評価	事業別評価	取組評価	事業別評価	
B	A							学務保健課 指導室
	B							
	B							
	B							
B	B							指導室
	B							
	A							
B	B							指導室
	B							
	B							
	B							
	B							
B	B							指導室
	B							
	A							
B	B							教育総務課 学務保健課 指導室
	B							
B	B							学務保健課
	B							
B	B							学校施設課 学務保健課
	B							
	B							
	B							
B	B							学校施設課
	B							
B	B							教育総務課 学校施設課 指導室
	B							
	B							
	B							
B	B							学務保健課
	B							
B	B							学務保健課

■令和4年度から令和7年度までの府中市教育委員会における取組一覧
 (取組 No. 12～18)

取組 No.	取組名	事業 No.	主な事業
12	学習機会の提供と環境づくりの推進	12-1	青少年団体の育成
		12-2	生涯学習機会の創出
		12-3	心身障害児・者余暇学習支援事業
13	図書館サービスの充実	13-1	中央図書館運営事業
		13-2	地区図書館運営事業
		13-3	レファレンスサービス事業
		13-4	児童・青少年サービス事業
14	文化施設の有効活用	14-1	郷土の森博物館管理運営事業
		14-2	美術館運営事業
15	歴史文化遺産の保存と活用	15-1	ふるさと府中歴史館管理運営事業
		15-2	武蔵国府跡保存活用事業
		15-3	府中市史編さん事業
16	スポーツ活動の普及・促進	16-1	地域スポーツ活動の普及・促進
		16-2	スポーツ活動機会の充実
17	スポーツ環境の整備	17-1	スポーツ施設の整備
		17-2	総合体育館移転関連事業
18	トップチーム等との連携	18-1	ラグビーのまち府中推進事業
		18-2	トップチーム等連携事業

評価の推移				評価の推移				担当課
令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		
取組評価	事業別評価	取組評価	事業別評価	取組評価	事業別評価	取組評価	事業別評価	
B	B							文化生涯学習課
	B							
	B							
B	A							図書館
	B							
	B							
	B							
A	A							ふるさと文化財課 美術館
	A							
B	A							ふるさと文化財課
	A							
	C							
B	B							スポーツタウン推進課
	B							
B	B							スポーツタウン推進課
	B							
B	B							スポーツタウン推進課
	B							

取組名 **1 学習指導等の充実** 【担当課】 学務保健課、指導室

概要 生涯を通して健全な生活を送ることができるよう、子供たちの確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよく育むため、各教科の学習はもとより、食育等の健康教育、人権教育、環境教育、キャリア教育や学校行事等の内容の充実に取り組む。

目標 子供たちが新しい時代に求められる資質・能力を身に付けられるよう、ICTの活用などにより、学校における教育内容の充実を図る。

主な事業		
No.	事業名	事業概要
1-1	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	小学校・中学校における基礎学力を定着させる。また、課題の解決に向けた実践力を育成する教育を推進し、英語教育の充実も図る。
1-2	生命を大切にする心や他の人を思いやる心などを育む教育の充実	人権教育、「考え、議論する道徳」及び環境保全に対する意識を育む取組を推進する。
1-3	健康で安全に生活する力を育む教育	体育の授業における授業改善や学校と地域との協働による体力向上の取組を行う。また、基本的な生活習慣の定着・改善に向けた取組を通して、食育を含めた健康教育を推進する。
1-4	学びと育ちの視点を踏まえた義務教育9年間の教育課程と指導の充実	小・中連携教育やふるさと学習を推進する。また、地域の教育資源をいかした教育活動の充実を図る。

成果指標						
	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
指標名	全国学力・学習状況調査における東京都との正答数分布の差異				目標値	
推移	小6国語 C層 +2.9㊦ D層 +1.4㊦ 小6算数 C層 +0.7㊦ D層 -0.6㊦ 中3国語 C層 +2.1㊦ D層 -4.7㊦ 中3数学 C層 -1.5㊦ D層 -6.1㊦	小6国語 C層 -1.3㊦ D層 -0.2㊦ 小6算数 C層 +0.5㊦ D層 -0.2㊦ 中3国語 C層 -1.2㊦ D層 -3.0㊦ 中3数学 C層 +1.3㊦ D層 -5.5㊦				C、D層*の減少
指標名	全国学力・学習状況調査における東京都との平均正答率の差異				目標値	
推移	小6 国語 -2㊦ 算数 -1㊦ 中3 国語 +2㊦ 数学 +4㊦	小6 国語 0㊦ 算数 0㊦ 中3 国語 +2㊦ 数学 +4㊦			小6 各教科0ポイント以上 中3 各教科上昇	

* C層、D層…全国学力・学習状況調査の調査者を正答数の大きい順に整列し、推計した人数比率により25%刻みで4つに層分けした各層のうち、上位から3番目と4番目の層の呼称。(各層の上位から1番目がA層、2番目がB層、3番目がC層、4番目がD層)

評価	
令和4年度の評価	B 2.3 取組を予定通り実施できた
	小学校においては、国語、算数とともに全国学力・学習状況調査における東京都との平均正答率の差異が0ポイントとなり、改善が見られた。
課題・今後の展開	C、D層の児童・生徒の減少に向け、授業改善推進プランを作成し、学校全体で授業改善に取り組む。また、タブレット端末を活用したドリル型コンテンツの活用促進を図る。さらに、家庭と連携した家庭学習の充実のための啓発などを行う。
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●学力向上プロジェクトチームで検討した授業改善の視点や問題解決型授業づくり等の工夫・改善、家庭向けリーフレット作成等の共有について高く評価できる。今後も知・徳・体のバランスの取れた教育活動の推進に期待する。(小林) ●特色ある施策を次々と推進し、学習指導等の充実を目指していることを評価する。英語教育は学校での教育活動が土台となる。A L Tの配置方法(時数増・効果的な活用開発)に期待する。I C T活用では生成A I活用の指針に基づく適切な推進が不可欠である。(秋山) ●新型コロナウイルス感染症が第5類に分類され沈静化している状況で、児童・生徒の課題解決に向けた実践力の育成や人権教育の充実化など、様々な学習の取組を工夫・実施していることが分かった。こうした取組によって、子供たちの学力と生活態度に改善が見られていることを評価する。(岡田)

事業別評価等						
1-1	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着					
事業概要	小学校・中学校における基礎学力を定着させる。また、課題の解決に向けた実践力を育成する教育を推進し、英語教育の充実も図る。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	東京都児童・生徒の学力向上を図る調査において、「授業が分からない」と回答する児童・生徒の割合					
	国語(小)	7.5%	国語(小)	6.8%		
	国語(中)	7.9%	国語(中)	8.7%		
	算数(小)	10.4%	算数(小)	9.9%		
	数学(中)	17.8%	数学(中)	13.9%		
英語(中のみ)	21.9%	英語(中のみ)	20.2%			
実績値2	外国語指導助手(A L T)の1校当たりの週の配置時間数(小・中学校)					
	11.9時間/週	11.5時間/週				
実績値3	英語イベント参加者数					
	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため実施せず	<ul style="list-style-type: none"> ●わくわく英語体験ツアー 小学生 93人(低学年53人・高学年40人) 中学生 28人 				
評価・評価の理由	A 事業を拡充して実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●市立学校の教員で構成する学力向上プロジェクトチームが学力調査等の結果から分析した授業改善の視点や問題解決型の授業づくり等の工夫・改善について全校で共有し、基礎的な知識及び技能の習得に向けた授業改善を図った。また、家庭学習の充実に資する家庭向けリーフレットを作成し、児童・生徒及び保護者に周知した。 ●朝学習や地域ボランティアを活用した放課後学習教室等で、基礎的・基本的な学力の向上を図る取組の充実を図った。 ●英語体験イベントとして、多くの外国の方とともに英語で世界各国の文化や生活習慣を学ぶ「わくわく英語体験ツアー」を開催した。 ●学力向上プロジェクトチームや「わくわく英語体験ツアー」など、新たな取組等により全国学力・学習状況調査の結果に成果が表れていることから、A評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●令和5年度から英語体験型施設の活用を新たに開始するなど、体験的な学習に重点をおいた指導の充実を図る。また、A L Tの活用については、英語の授業以外での活用が図られるよう、研究を進める。 					

事業別評価等					
1-2	生命を大切にする心や他の人を思いやる心などを育む教育の充実				
事業概要	人権教育、「考え、議論する道徳」及び環境保全に対する意識を育む取組を推進する。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと理解している児童・生徒の割合(全国学力・学習状況調査 質問紙調査)				
	94.6%	96.2%			
実績値2	市教育委員会が作成した道徳教材を活用した学校数				
	未調査	5校			
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた				
	<ul style="list-style-type: none"> ●人権教育の教員研修会や、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた人権作文発表会を再開するなど、人権問題への意識向上に努めた。 ●環境教育の一環として、市内団体との連携により、小・中学校でゴーヤや花の栽培方法の指導を行った。 ●「考え・議論する道徳」の実現を図るため、各校の道徳教育を推進する立場の教員を集めた連絡会を年2回開催した。 ●各種取組を継続して行うことができたため、B評価とする。 				
今後の方向性	●令和5年度は、道徳の郷土資料作成プロジェクトチームを設置し、既存の「郷土府中に根ざした道徳資料集」を全面改訂し、令和6年度から全校で活用する。				
1-3	健康で安全に生活する力を育む教育				
事業概要	体育の授業における授業改善や学校と地域との協働による体力向上の取組を行う。また、基本的な生活習慣の定着・改善に向けた取組を通して、食育を含めた健康教育を推進する。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	体力・運動能力・運動習慣等の調査における東京都総合点との差異				
	小学校 第5学年男子 -0.3% 第5学年女子 -0.3% 中学校 第2学年男子 ±0.0% 第2学年女子 +1.1%	小学校 第5学年男子 -0.4% 第5学年女子 -0.5% 中学校 第2学年男子 -0.6% 第2学年女子 ±0.0%			
実績値2	外部講師を活用したがん教育の実施校数				
	小学校 1校	小学校 1校 中学校 10校			
実績値3	食育事業の実施校数				
	小学校 5校 中学校 1校	小学校 8校 中学校 1校			
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた				
	<ul style="list-style-type: none"> ●運動の特性に触れながら、運動の楽しさや喜びを味わい、主体的に考え、工夫しながら運動の課題を解決できるよう、授業改善を図った。 ●部活動外部指導員を配置することで、より専門的な指導を実施することができた。 ●がん教育については、市内訪問看護事業所との連携により講師を派遣してもらうなど、工夫して実施した。 ●食育を推進するため、小・中学校で栄養教諭が食に関する指導を実施した。 ●各種取組を継続して実施したことから、B評価とする。 				
今後の方向性	●今後も運動の楽しさや喜びを味わい、主体的に取り組めるよう、地域のスポーツ団体や企業等と連携した運動習慣、体力向上に資する取組を推進する。				

事業別評価等						
1-4	学びと育ちの視点を踏まえた義務教育9年間の教育課程と指導の充実					
事業概要	小・中連携教育やふるさと学習を推進する。また、地域の教育資源をいかした教育活動の充実を図る。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合（全国学力・学習状況調査 質問紙調査）					
	小学校 52.6%	小学校 52.5%				
	中学校 38.9%	中学校 38.4%				
実績値2	職場体験受入事業所数					
	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため実施せず	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため実施せず				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●小・中連携教育では、各学校及び中学校区ごとに特色ある取組を支援した。 ●「未来へつなぐ府中2020レガシー」の取組として、オリンピック・パラリンピック等の教育や府中ふるさと学習の推進を図り、各学校では「まちづくり」、「歴史・文化」、「自然環境」、「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」の6つのテーマに沿って、オリンピック・パラリンピアンによる講演会や障害者スポーツの体験会、地域清掃、お囃子の体験会などを実施し、取組の充実を図った。 ●地域に根ざした学習を進めるため、府中市に関する素材を教材化した生活科及び社会科で活用する副読本等を作成した。 ●職場体験の実施（再開）のため、受入事業所との連携を図った。 ●小学校5年生において、民間活力を活用した新たなセカンドスクールを長野県飯山市、茅野市で先行実施した。また、日光林間学校を全校で実施した。 ●新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を取りながら宿泊体験学習を実施できたことや、義務教育9年間を通じた宿泊体験学習の見直しを図ったことなどから、B評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●令和5年度は民間活力を活用したセカンドスクールを小学校全校で実施するほか、新たに中学校1年生の1学期に新入生オリエンテーションを行うなど、宿泊体験学習の更なる拡充を図る。 ●市政施行70周年に向け、馬場大門のケヤキ並木をいかした学習について、小・中学校の児童・生徒にアンケートを行い、児童・生徒の主体的な取組を推進する。 					

取組名 **2 特別支援教育の充実** 【担当課】 指導室

概要 障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に教育を受けられるよう、特別支援教育推進計画に基づき多様な学びの場を整備し、特別支援教育を展開する。

目標 児童・生徒一人一人が個に応じた適切な教育を受けられるよう、特別支援教育を展開する。

主な事業		
No.	事業名	事業概要
2-1	学習環境の改善と整備	全ての児童・生徒にとって、分かりやすい授業、過ごしやすい教室の整備、活動しやすい学級風土づくりを促進する。また、一人一人の障害特性に応じた学習環境の改善・整備を図るとともに、ICT機器の効果的な活用、医療的ケアも含めた人的支援など、合理的配慮を提供する。
2-2	交流・共同学習の実施	多様性や互いの良さを尊重し合う大切さを学ぶため、通常の学級の児童・生徒と特別支援学級の児童・生徒との交流及び共同学習の充実を図る。また、特別支援学級において、様々な体験的学習や、地域の人々と喜びを分かち合える活動の機会を設定する。
2-3	教員の専門性の向上	通常の学級と特別支援学級等との教員の連携による指導体制を整備し、教科等の学習の充実を図る。また、障害の有無に関わらず、全ての児童・生徒にとって分かりやすい授業づくりを進めるとともに、ICT機器の活用を含めた合理的配慮を提供する。

成果指標					
	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	個々の実態に即した指導内容・方法の工夫改善の実施率				目標値
推移	86%	99.6%			100%

評価							
令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.3						
		特別支援学級に在籍する児童・生徒及び特別支援教室、通級指導学級を利用する児童・生徒一人一人の実態に応じて、個別指導計画を作成し、指導内容・方法の工夫及び改善をすることができた。					
課題・今後の展開		特別支援教室等を利用する必要はないものの、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童・生徒についても、学校生活支援シートを確実に作成するとともに、個別の教育課程の編成に合わせて、個別指導計画を作成できるようにする。					
有識者意見		<ul style="list-style-type: none"> ●今後も支援を必要とする児童・生徒の特性や困難さの理解とともに、学校の組織的な指導体制を充実させ、一人一人の個性をいかした学びの機会と場の拡充に努めていただきたい。(小林) ●多様な学びの場の整備として、学校組織(チーム)として、行事における交流のみならず教科・領域等での積極的交流が進むことを期待する。支援体制では、幼児教育からの教員同士及び保護者・地域との連携・交流が豊かに展開されることを望む。(秋山) ●特別支援教育を必要とする子供の学習ニーズが多様化している現在、特別支援教育推進計画に基づき学びの場を整備し、状況に応じた学習プログラムを展開していることは高く評価されよう。(岡田) 					

事業別評価等					
2-1 学習環境の改善と整備					
事業概要	全ての児童・生徒にとって、分かりやすい授業、過ごしやすい教室の整備、活動しやすい学級風土づくりを促進する。また、一人一人の障害特性に応じた学習環境の改善・整備を図るとともに、ICT機器の効果的な活用、医療的ケアも含めた人的支援など、合理的配慮を提供する。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	合理的配慮支援（医療的ケアも含む）の対象児童・生徒数				
	小学校 25人 中学校 9人	小学校 24人 中学校 13人			
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた ●合理的配慮支援員を引き続き配置するとともに、タブレット端末の活用を図りながら一人一人の児童・生徒に応じた合理的配慮を継続して提供できたことから、B評価とする。				
今後の方向性	●令和5年度に策定する医療的ケアの実施に関するガイドラインに基づき、医療的ケアが必要な児童・生徒が通常の学級で安心して生活できるよう、看護師の配置等の校内における体制整備を行う。 ●合理的配慮支援員等の配置については、必要としている児童・生徒に支援が行き届くよう、引き続き、学校からの要請に応じて、合理的配慮の必要性等の状況把握を確実にを行う。				
2-2 交流・共同学習の実施					
事業概要	多様性や互いの良さを尊重し合う大切さを学ぶため、通常の学級の児童・生徒と特別支援学級の児童・生徒との交流及び共同学習の充実を図る。また、特別支援学級において、様々な体験的学習や、地域の人々と喜びを分かち合える活動の機会を設定する。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	交流及び共同学習の対象児童・生徒数（上段）及び直接体験の実施回数（下段）				
	112名 69回	104名 86回			
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた ●学校行事だけでなく、教科・領域等においても、通常の学級との交流及び共同学習を継続して行うことができたため、B評価とする。				
今後の方向性	●今後は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施が難しかった直接体験などの充実を図り、障害者理解を推進するとともに、地域の奉仕活動や、地域との防災訓練など幅広い年齢層と接する機会を充実させる。				
2-3 教員の専門性の向上					
事業概要	通常の学級と特別支援学級等との教員の連携による指導体制を整備し、教科等の学習の充実を図る。また、障害の有無に関わらず、全ての児童・生徒にとって分かりやすい授業づくりを進めるとともに、ICT機器の活用を含めた合理的配慮を提供する。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	特別支援学校の教員による巡回相談（授業観察、授業内容・方法への助言）の回数				
	0回	18回			
実績値2	市教育委員会主催の特別支援教育をテーマとした研修会の回数				
	3回	7回			
評価・評価の理由	A 事業を拡充して実施できた ●研修会以外においても、管理職、特別支援コーディネーター、特別支援教室専門員、特別支援学級等の主任等を集めた連絡会を実施した。 ●全ての特別支援学級に対して、年2回、計画的に特別支援学校のコーディネーター等から指導方法の改善等の助言を受けることができたほか、研修等の回数を増やすことができたことから、A評価とする。				
今後の方向性	●今後は、幼稚園・保育園との連携を図り、幼稚園・保育園及び小・中学校の教員が特別支援教育について学ぶことができる体制を整備していく。				

取組名 **3 学校組織・人材の支援** 【担当課】 指導室

概要 教員の育成を目的とした研修の実施や、教員をサポートし、学校の運営を支援するための支援員の配置、ワーク・ライフ・バランスの推進を行う。また、地域との連携を推進するため、各学校で学校運営協議会（文部科学省版コミュニティ・スクール）又はスクール・コミュニティ協議会（府中版コミュニティ・スクール）の取組を展開する。

目標 教員の長時間労働を軽減するとともに、学校が抱える課題に対応できる体制を強化するため、教員の働き方改革、指導力向上、各種支援員の適正な配置、外部人材の活用、地域との連携強化を推進する。

主な事業		
No.	事業名	事業概要
3-1	教員の指導力向上	教員の意欲的かつ持続的な成長のため、組織的・継続的な校内研修の開催を支援する。また、市教育委員会主催の研修等を充実させるとともに、研究協力校の取組を継続する。
3-2	教員の働き方改革の推進	ストレス・チェックや産業医面談の実施等により、教員の心身の健康保持や働く環境の改善に資する取組を推進する。また、校務支援システムの改修や支援員制度の充実等により、教員の長時間労働を軽減する。
3-3	学校の組織力の強化	学校運営を支援する支援員制度を継続するとともに、より効果的なものとするための検討を行う。また、地域住民を学校支援ボランティアとして配置するなど、地域と一体となって学校を運営する環境を整える。
3-4	いじめ防止対策の徹底 (学校における取組)	学校全体でいじめ防止対策の基本的な取組を徹底する。また、教職員の対応力向上に取り組み、併せて児童・生徒・保護者が学校に相談しやすい環境づくりを進める。
3-5	地域との連携強化	各学校において、学校と保護者、地域が連携・協働し、児童・生徒の学びや成長を支えるため、協議会を設置するとともに、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターを中心に、地域の人材や資源を活用した活動を推進する。

成果指標					
	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	教員一人当たりの1か月の時間外在校等時間				目標値
推移	38時間	35時間			22時間

評価							
令和4年度の評価	B	取組を予定通り					
	2.0	実施できた					
課題・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ● I C T活用研修や、英語教育の充実に関する研修、野外活動に関する研修など、現在の教育課題に対応した新たな研修会を開催し、教員の専門性を高めることができた。 ● 校長会等の機会を通じて、管理職の学校マネジメント能力の育成を図った。 ● 職層に応じた適材適所の配置やO J T研修の充実を図った。 ● 各種支援員の配置により、業務の効率化を図り、学校の働き方改革を推進した。 						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ● これからの時代に求められる授業の在り方について、管理職のリーダーシップの下、全教職員で取り組んでいく。 ● いじめ等の学校問題に対して、学校全体で未然防止の取組の充実を図るとともに、早期発見・全件対応・早期解消に取り組む。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育課題に対応した各種研修会の実施、O J T研修の充実、いじめ防止対策の徹底等の取組について評価できる。学校支援ボランティアの登録数も増加傾向にあり、校長のリーダーシップの下、地域の期待に応える学校運営の推進を期待する。（小林） ● 学校の経営資源の一つは「人材」である。府中版・文科省版コミュニティ・スクールの組織をいかに、多様な外部人材を確保して学校の応援団とすることは、学校組織の活性化や豊かな教育活動の展開、児童・生徒の育成とともに、地域の活性化に有効である。（秋山） ● 各学校で教員の育成を目的とした研修の実施、また地域連携推進のためのスクール・コミュニティ協議会（府中版コミュニティ・スクール）業務の充実化などに取り組んでいることが分かった。今後も市と学校が協力し、いじめ防止対策などを積極的に進めてほしい。（岡田） 						

事業別評価等						
3-1 教員の指導力向上						
事業概要	教員の意欲的かつ持続的な成長のため、組織的・継続的な校内研修の開催を支援する。また、市教育委員会主催の研修等を充実させるとともに、研究協力校の取組を継続する。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	国・都・市の研究協力校					
	6校	12校				
実績値2	教職員研修の実施回数					
	54回	68回				
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●都の研究事業を活用し、多くの学校で安全、健康、授業改善等に関する多様な取組を実施した。 ●研究協力校の取組・成果を研究発表会を開催することで市内外に広め、研究協力校以外においても指導力の向上を図ることができた。 ●校内におけるICT活用等の校内研修等やOJTの充実を図り、指導力の向上を図ることができた。 ●新型コロナウイルス感染症の影響で縮小していた研修会について、集合して協議を行うなど、従来の状態へ近づけることができた。 ●継続して教員の指導力向上の取組を実施できたことから、B評価とする。 					
今後の方向性	●令和5年度は、教育活動支援専門員を2名増員し、若手教員や新任管理職の育成に力を注いでいく。					
3-2 教員の働き方改革の推進						
事業概要	ストレス・チェックや産業医面談の実施等により、教員の心身の健康保持や働く環境の改善に資する取組を推進する。また、校務支援システムの改修や支援員制度の充実等により、教員の長時間労働を軽減する。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	産業医による面接指導の実施回数					
	4回	3回				
実績値2	部活動外部指導員の配置数					
	148人	146人				
実績値3	スマート連絡帳の登録率					
	—	小学校 99% 中学校 96%				
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スマート連絡帳の導入による校務改善を図り、教員の働き方改革につなげることができた。 ●部活動外部指導員については、新型コロナウイルス感染症の影響により控えていた活動を再開するなど、充実を図ることができた。 ●以上の理由から、B評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後もICT機器や校務支援システムの更なる活用を通して、一層の校務改善を図る。 ●今後は、部活動の地域移行の動向も踏まえ、教員の更なる負担軽減につながるよう検討していく。 					

事業別評価等					
3-3 学校の組織力の強化					
事業概要	学校運営を支援する支援員制度を継続するとともに、より効果的なものとするための検討を行う。また、地域住民を学校支援ボランティアとして配置するなど、地域と一体となって学校を運営する環境を整える。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	学校経営支援員の1校当たりの週の配置時間数(時間/週)				
	58.01時間/週	57.9時間/週			
実績値2	副校長等校務改善支援員の1校当たりの週の配置時間数(時間/週)				
	31.2時間/週	31.5時間/週			
実績値3	学校支援ボランティアの登録人数				
	539人	634人			
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各支援員制度を活用し、児童・生徒の個々の実態に応じたきめ細やかな支援を行うことができた。 ●新型コロナウイルス感染症の影響で縮小していたボランティア等外部人材との連携について、再開・拡大するなど、連携を推進した。 ●各種事業の再開・拡大途中であることから、B評価とする。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後は、引き続き適切な支援員等の配置を進めるとともに、ICT機器の活用等も含めた効果的な運営を検討する。 				
3-4 いじめ防止対策の徹底(学校における取組)					
事業概要	学校全体でいじめ防止対策の基本的な取組を徹底する。また、教職員の対応力向上に取り組み、併せて児童・生徒・保護者が学校に相談しやすい環境づくりを進める。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	「学校いじめ防止基本方針」について理解している教職員の割合(11月調査)				
	76%	88%			
実績値2	年度末時点におけるいじめの解消率				
	小学校 78.1% 中学校 96.8%	小学校 73.9% 中学校 82.5%			
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●府中市いじめ防止基本方針の見直しを受けて、各学校では、学校いじめ防止基本方針の内容を点検し、組織的な対応の徹底を図った。 ●年3回以上のいじめの防止等に関する校内研修等の実施率は、年度末までに100%を達成した。 ●全教職員がいじめの認知、組織的な対応について理解し、保護者に対して適切に説明する必要があるため、B評価とする。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●令和5年度は、府中市いじめ防止対策推進条例の制定に伴い、府中市教育委員会いじめ問題対策委員会を開催し、いじめ防止等に向けた効果的な対策について検討するとともに、市全体でいじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進していく。 				

事業別評価等					
3-5	地域との連携強化				
事業概要	各学校において、学校と保護者、地域が連携・協働し、児童・生徒の学びや成長を支えるため、協議会を設置するとともに、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターを中心に、地域の人材や資源を活用した活動を推進する。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	協議会が中心となり、地域と連携・協働した教育活動を行った学校数				
	小学校 20校 中学校 7校	小学校 18校 中学校 6校			
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた				
	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響により一部の活動を中止・縮小したが、可能な範囲で活動を実施し、地域との連携に努めた。 ●学校と地域をつなぐ調整役である地域コーディネーターへ研修等を実施する地域コーディネーター連絡会のほか、地域コーディネーター間による情報交換会を開催し、情報共有と連携強化を図った。 ●全校で継続して取り組めたことからB評価とする。 				
今後の方向性	●今後も協議会を基盤とし、学校と地域の連携強化や取組の充実を図るとともに、その取組について広く市民に発信していく。				

取組名 **4 教育相談・教育支援** 【担当課】 指導室

概要 心理相談員やスクールソーシャルワーカーによる相談・支援を進めるとともに、多様な相談に対して適切に対応するため、相談・支援体制の充実を図る。また、不登校児童・生徒の実態に配慮した教育を実施するため、不登校特例校の設置を進めるほか、ICT機器を活用した学習支援を行う。

目標 児童・生徒が抱える悩みや課題に的確に対応し、支援できるよう教育相談体制を充実する。また、関係機関とも連携しながら、それぞれの個に応じたきめ細やかな支援を充実する。

主な事業		
No.	事業名	事業概要
4-1	就学相談や教育相談の充実	心理相談員やスクールソーシャルワーカーによる相談・支援の充実を図り、福祉や医療などの関係機関と連携する。
4-2	個に応じたきめ細やかな支援の実施	不登校、病気療養、日本語指導を要する児童・生徒などに対してきめ細やかな個別の支援の充実を図る。また、不登校特例校の設置やICT機器を活用した学習支援など、多様な学びを確保する。
4-3	いじめ防止対策の徹底 (教育委員会における取組)	府中市いじめ防止基本方針に基づく、いじめ問題解決のための体制の充実を図る。また、学校いじめ対策委員会による組織的な対応を行う。さらに、いじめについて教員の対応力の向上を図るため、弁護士との連携を進め、いじめ防止授業やいじめに関する教員研修等を実施する。

成果指標					
	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	不登校児童・生徒の出現率				目標値
推移	小学校 1.42% 中学校 5.42%	小学校 1.72% 中学校 6.39%			小 0.50% 中 3.00%
指標名	不登校児童・生徒の相談率(学校内外による相談・指導等を受けた者の割合)				目標値
推移	50.3%	60.6%			100%

評価							
令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.3						
課題・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ●市立学校の教員等で構成する不登校プロジェクトチームを設置し、不登校児童・生徒の状況に応じた登校の具体的な対応例を共有し、改善を図ることができた。特にタブレット端末を活用したオンライン面談やオンライン上の学習課題の提示、ドリル型コンテンツを通じた学習支援を推進した。 ●就学相談等を担当する心理相談員を採用し、障害のある児童・生徒の就学先についての相談体制を充実させ、適切な就学先を決定することができた。また、教育相談を担当する心理相談員及びスクールソーシャルワーカーによる相談・支援体制を学校や保護者に周知し、支援の必要な児童・生徒及びその保護者の相談対応を行った。 ●スクールソーシャルワーカーや教育相談員、子育て世代包括支援センター「みらい」の職員からの意見を踏まえた不登校対応等の検討及び円滑な連携に向けた協議を行った。 						
	<ul style="list-style-type: none"> ●不登校の未然防止や不登校児童・生徒への支援が課題となっているため、不登校対応プロジェクトチームにおいて、生活指導担当主任会と連携し、全校に整備されているサポートルームの効果的な活用についての協議や関係機関との連携を深める取組を推進する。 ●いじめや不登校の増加など、子供を取り巻く課題が顕在化する中、スクールソーシャルワーカーが介入するケースも増えている。家庭環境や発達等に課題のある児童・生徒及びその保護者に対し、スクールソーシャルワーカーが継続的に支援できるよう、更なる支援体制の充実が必要である。 ●従来から設置している適応指導教室の一層の充実を図るとともに、令和7年度(予定)には新たに不登校特例校を設置することにより、不登校児童・生徒への対応施策の更なる推進を図る。 						

有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●人間関係の希薄化・複雑化、さらには価値観の多様化等、児童・生徒を取り巻く環境の変化が指摘される中、心理相談員やスクールソーシャルワーカーによる相談・支援は極めて重要である。今後も関係機関と連携し、きめ細やかな支援をお願いしたい。(小林) ●ICT機器を活用した不登校児童・生徒に対する支援の充実、不登校プロジェクトチームの設置、不登校特例校の設置に向けた動向を評価したい。さらにスクールソーシャルワーカーの役割が求められる現状分析と対応、スクールロイヤーの配置の効果等の検証と活用を期待する。(秋山) ●心理相談員やスクールソーシャルワーカーによる支援体制を整備することで、不登校児童・生徒の実態に配慮した教育の充実化を図ることや、ICT機器を活用した学習支援を行うという目標設定は高く評価される。不登校特例校の設置及び適切なフォローによって、一人でも多くの子供たちが学習環境に親しめるようにしてほしい。(岡田)
-------	---

事業別評価等						
4-1 就学相談や教育相談の充実						
事業概要	心理相談員やスクールソーシャルワーカーによる相談・支援の充実を図り、福祉や医療などの関係機関と連携する。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	就学相談(転学相談含む)、教育相談(電話・来室)の対応件数					
	就学相談 306件 教育相談 1,081件	就学相談 267件 教育相談 1,021件				
実績値2	スクールソーシャルワーカーの対応件数					
	148件	165件				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●教育相談では、相談等により相談者の不安を解消するなど、125件について成果を上げることができた。 ●スクールソーシャルワーカーが児童・生徒を取り巻く環境に働き掛け、生活の改善や関係機関への接続など、36件について成果を上げることができた。 ●これまでの体制を維持し、相談対応できたことから、B評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●就学相談については、今後も継続して保護者からの相談を傾聴し、実態把握に努めるとともに、保護者の意向を最大限尊重して就学先を決定する。スクールソーシャルワーカーの支援については、児童・生徒の状況等に応じた支援や支援先につなげられるよう、引き続き学校や関係機関との連携強化を図っていく。 					

事業別評価等					
4-2 個に応じたきめ細やかな支援の実施					
事業概要	不登校、病気療養、日本語指導を要する児童・生徒などに対してきめ細やかな個別の支援の充実を図る。また、不登校特例校の設置やICT機器を活用した学習支援など、多様な学びを確保する。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	特別な支援を要する児童・生徒に対する学校生活支援シート及び個別指導計画の作成率(通常の学級)				
	—	学校生活支援シート 76.2% 個別指導計画 74.2%			
実績値2	外部機関と連携している長期(90日以上)不登校児童・生徒の割合				
	43.3%	68.4%			
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた				
	<ul style="list-style-type: none"> ●海外から帰国し、又は来往した日本語指導が必要な児童・生徒について、ペルシャ語やウクライナ語など多様な言語に対応し、日本語指導を実施することで、学校生活等への適応を図ることができた。 ●医療的ケアの必要な児童・生徒の就学・進学に当たり、関係課及び関係機関と連携してケース会議等を行い、学校生活に必要な支援体制を構築することができた。 ●市立学校の教員等で構成する不登校プロジェクトチームを設置し、関係機関と児童・生徒の状況に応じた具体的な対応例を共有した。 ●個別の支援等が必要な児童・生徒に対し、関係課・機関と連携して対応を進めることができたため、B評価とする。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も、個別の支援等が必要な児童・生徒に対して、関係部署等と連携・協議した上で、必要な支援等を行い、より良い教育を提供していく。また、特別な支援を要する児童・生徒に対して、特性に応じた指導・支援が行えるよう、保護者と連携し、学校生活支援シートの作成等に努める。 ●令和5年度は、各学校でのサポートルームの運営状況を共有し、支援の充実を図る。 				
4-3 いじめ防止対策の徹底(教育委員会における取組)					
事業概要	府中市いじめ防止基本方針に基づく、いじめ問題解決のための体制の充実を図る。また、学校いじめ対策委員会による組織的な対応を行う。さらに、いじめについて教員の対応力の向上を図るため、弁護士との連携を進め、いじめ防止授業やいじめに関する教員研修等を実施する。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	市教育委員会が主催するいじめに関する教員向け研修等の実施回数				
	12回	17回			
評価・評価の理由	A 事業を拡充して実施できた				
	<ul style="list-style-type: none"> ●府中市いじめ防止基本方針を見直したほか、府中市いじめ防止対策推進条例を新たに制定するなど、いじめ防止等のための対策の充実を図った。 ●児童・生徒の最善の利益のため、学校に対して法的視点から相談や助言を行うことができるよう、スクールロイヤーの配置に向け、準備を進めた。 ●具体的な体制の充実は令和5年度以降であるが、新たな条例を制定し、校長会等で啓発を行うなど、各学校においていじめの早期発見・早期対応を図ることができるように継続して支援を行うことができたため、A評価とする。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後は、府中市いじめ防止対策推進条例に基づき、いじめ防止等の対策を総合的かつ効果的に推進していく。また、保護者・地域向けのリーフレットを作成し、いじめの定義やいじめ防止対策などの周知を図る。 ●令和5年度から、弁護士や大学教授等の専門家を構成員とする府中市教育委員会いじめ問題対策委員会を設置し、より実効的な対策の検討を進めていく。 				

取組名	5 学びを確保するための経済的支援	【担当課】 教育総務課、学務保健課、指導室			
概要	経済的理由により就学困難と認められる児童・生徒の保護者に対し、必要な援助を行うとともに、人物・学力等が良好な生徒、学生又はその保護者に対し、奨学金の給付や貸付けなどの支援を行う。				
目標	学齢児童・生徒の保護者に対する経済的負担を軽減し、義務教育の円滑な実施を図る。また、学ぶ意欲はあるが、経済的理由により修学が困難な生徒や学生に対して支援を行い、教育の機会均等を図る。				
主な事業					
No.	事業名	事業概要			
5-1	就学援助の実施	学用品費、入学準備金、給食費、宿泊学習費などの必要な援助を行う。また、特別支援学級に就学する児童・生徒の保護者等に就学奨励費を支給する。			
5-2	奨学金制度の実施	入学準備金を含めた奨学金の給付や貸付け、入学時初年度納付資金の貸付けを行う。また、海外留学等奨学資金の貸付けを行う。			
成果指標					
	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	数値での評価がなじまないため、設定なし				目標値
推移					

評価						
令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた				
	2.0					
就学援助や奨学金制度の実施による経済的支援を実施することにより、経済的負担の軽減を図ることができた。						
課題・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 就学援助は、生活保護基準の見直しによる就学援助事業への影響を勘案しつつ、他市の動向も踏まえ、支給額等の検討を行っていく。 ● 奨学金の給付・貸付け制度についても、修学期の子供がいる家庭の経済状況の変化や国や東京都の動向を注視する必要がある。また、当該制度の見直しについては、国が修学支援制度の更なる拡充に向けた検討を進めており、本市の奨学金制度と国や東京都の制度との併存及び財源確保が課題となるため、慎重に検討する必要がある。 					
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会情勢の変化等に伴う経済的支援に向けての就学援助や奨学金制度は、見直しを含め教育の機会均等という観点から、全ての児童・生徒に対して質の高い学びが保障されるよう、柔軟な対応・支援を継続していただきたい。(小林) ● 学びの機会均等を図るために、奨学金給付及び貸付けの制度を始め諸々の制度の構築・実施が適切に進められることを期待する。有効に活用されるためには、市民に対する制度面の周知の徹底がより求められる。(秋山) ● 教育の機会均等は、経済的に就学が困難となる児童・生徒に対して、自己実現のための重要な役割を果たす。奨学金や学用品費の援助など、様々な学習支援によって子供たちの可能性を最大限に引き出す取組がなされていることは高く評価されよう。(岡田) 					

事業別評価等					
5-1 就学援助の実施					
事業概要	学用品費、入学準備金、給食費、宿泊学習費などの必要な援助を行う。また、特別支援学級に就学する児童・生徒の保護者等に就学奨励費を支給する。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	就学援助費認定者数・認定率(小学校) ※在籍数は3月末時点				
	認定者数 1,045人 認定率 7.72% (在籍数 13,528人)	認定者数 1,035人 認定率 7.69% (在籍数 13,465人)			
実績値2	就学援助費認定者数・認定率(中学校) ※在籍数は3月末時点				
	認定者数 626人 認定率 10.54% (在籍数 5,940人)	認定者数 594人 認定率 9.96% (在籍数 5,963人)			
実績値3	特別支援学級就学奨励費対象件数				
	小学校 107件 中学校 99件	小学校 152件 中学校 110件			
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特別支援学級の児童・生徒数が増加したため、特別支援学級就学奨励費対象件数が増加した。 ●経済的な情勢も踏まえた柔軟な支援を行うことができた。 ●以上の理由から、B評価とする。 				
今後の方向性	●引き続き制度の周知に努めるとともに、国や他市の動向を注視しながら、必要に応じて支給額の見直しを検討する。				
5-2 奨学金制度の実施					
事業概要	入学準備金を含めた奨学金の給付や貸付け、入学時初年度納付資金の貸付けを行う。また、海外留学等奨学資金の貸付けを行う。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	奨学資金給付者数				
	新規 64人 継続 99人	新規 55人 継続 104人			
実績値2	奨学資金貸付者数				
	新規 11人 継続 31人	新規 9人 継続 31人			
実績値3	入学時初年度納付資金貸付者数				
	8人	7人			
実績値4	荒奨学資金貸付者数				
	交通遺児等 0人 海外留学 4人 海外ホームステイ 0人	交通遺児等 1人 海外留学 2人 海外ホームステイ 1人			
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●給付奨学金については、審査を経て、要件を満たす希望者全員に給付を行った。あわせて、進学者には入学準備金を支給した。 ●貸付奨学金、入学時初年度貸付金及び荒奨学資金については、要件を満たす希望者全員に貸付けを行った。 ●新規の給付、貸付件数は減少傾向にあるものの、引き続き制度を必要とする方へ支援を行うことができた。 ●以上の理由から、B評価とする。 				
今後の方向性	●今後は、国や東京都の制度との併存、財源確保などの課題を踏まえながら、各種奨学金の申請状況を注視し、事業内容の見直しについても検討していく。				

取組名 **6 子供の健康の管理** 【担当課】 学務保健課

概要 生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るための資質や能力を育成するため、健康診断や相談を通じて、児童・生徒の健康づくりに努める。

目標 児童・生徒が自らの健康状態を把握し、生涯を通じて心身ともに健康な生活を送ることができるよう定期健康診断を実施し、その結果を通知するとともに、保健指導を行う。

主な事業		
No.	事業名	事業概要
6-1	定期健康診断の実施	児童・生徒の健康増進を図るため、各学校での定期健康診断を通じて、疾患の早期発見及び健康づくりの推進に努める。
6-2	保健指導の実施	健康診断の結果を基に、児童・生徒への保健指導を実施するとともに、学校の保健委員会の活動等を通じて健康増進の啓発を図る。また、学校医や地域の協力機関等と連携し、健康に関する講話等を実施するなど健康に対する意識醸成を図る。

成果指標					
	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	数値での評価がなじまないため、設定なし				目標値
推移					

評価

令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.0						
課題・今後の展開	各学校での定期健康診断については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に注意しながら実施し、児童・生徒の健康づくりを推進することができた。						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●健康診断の結果を踏まえ、児童・生徒の健康状態を把握し、適切な保健指導を進めてきた取組は評価できる。今後とも学校医、学校の保健委員会を中心に家庭との連携を図りながら、児童・生徒の健康づくりを推進していただきたい。（小林） ●学校保健委員会が児童・生徒の健康面を担保する指南役として機能することを願っている。また、コロナ禍を経て、感染状況の把握や健康管理全体の情報発信・健康推進役として、医師会・歯科医師会・薬剤師会と連携した府中市学校保健委員会に期待する。（秋山） ●子供が生涯を通じて心身ともに健康な生活を送ることを重視し、健康診断を通じて資質や能力を育成する取組を推進していることが分かった。学校の保健委員会を通じて相談窓口を開設することで、子供たちが悩みや問題を解消できる環境を引き続き整備してほしい。（岡田） 						

事業別評価等																																					
6-1 定期健康診断の実施																																					
事業概要	児童・生徒の健康増進を図るため、各学校での定期健康診断を通じて、疾患の早期発見及び健康づくりの推進に努める。																																				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度																																
	定期健康診断受診者数・受診率(小学校)																																				
	在籍数 13,553人 受診者 13,435人 受診率 99.1%	在籍数 13,505人 受診者 13,337人 受診率 98.8%																																			
実績値2	定期健康診断受診者数・受診率(中学校)																																				
	在籍数 5,950人 受診者 5,781人 受診率 97.2%	在籍数 5,976人 受診者 5,771人 受診率 96.6%																																			
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">評価・評価の理由</td> <td>B</td> <td>事業を予定通り実施できた</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6">●前年度と比較すると受診率は低下したが、おおむね計画通り実施することができたため、B評価とする。</td> </tr> </table>						評価・評価の理由	B	事業を予定通り実施できた					●前年度と比較すると受診率は低下したが、おおむね計画通り実施することができたため、B評価とする。																							
評価・評価の理由	B	事業を予定通り実施できた																																			
	●前年度と比較すると受診率は低下したが、おおむね計画通り実施することができたため、B評価とする。																																				
今後の方向性	●今後も、学校医や検査機関による健診体制を整備することで、疾病異常の早期発見及び受診率の向上に努める。																																				
6-2 保健指導の実施																																					
事業概要	健康診断の結果を基に、児童・生徒への保健指導を実施するとともに、学校の保健委員会の活動等を通じて健康増進の啓発を図る。また、学校医や地域の協力機関等と連携し、健康に関する講話等を実施するなど健康に対する意識醸成を図る。																																				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度																																
	数値での評価がなじまないため、設定なし																																				
評価・評価の理由	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>事業を予定通り実施できた</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6">●健康診断の結果を踏まえながら、児童・生徒の健康状態を把握し、適切な保健指導を行うことで、児童・生徒の健康づくりを推進することができた。</td> </tr> <tr> <td colspan="6">●学校保健委員会において、定期健康診断の報告及び児童・生徒の健康状況の傾向や課題を学校医等と共有することで、児童・生徒の健康増進を図った。</td> </tr> <tr> <td colspan="6">●学校医や地域の協力機関等と連携し、健康に対する意識醸成を図った。</td> </tr> <tr> <td colspan="6">●以上の理由から、B評価とする。</td> </tr> </table>						B	事業を予定通り実施できた						●健康診断の結果を踏まえながら、児童・生徒の健康状態を把握し、適切な保健指導を行うことで、児童・生徒の健康づくりを推進することができた。						●学校保健委員会において、定期健康診断の報告及び児童・生徒の健康状況の傾向や課題を学校医等と共有することで、児童・生徒の健康増進を図った。						●学校医や地域の協力機関等と連携し、健康に対する意識醸成を図った。						●以上の理由から、B評価とする。					
	B	事業を予定通り実施できた																																			
●健康診断の結果を踏まえながら、児童・生徒の健康状態を把握し、適切な保健指導を行うことで、児童・生徒の健康づくりを推進することができた。																																					
●学校保健委員会において、定期健康診断の報告及び児童・生徒の健康状況の傾向や課題を学校医等と共有することで、児童・生徒の健康増進を図った。																																					
●学校医や地域の協力機関等と連携し、健康に対する意識醸成を図った。																																					
●以上の理由から、B評価とする。																																					
今後の方向性	●今後も、学校及び学校医や市の関係機関などとの連携を密にし、組織的な対応を進めていく。																																				

取組名 **7 学校施設の老朽化への対応** 【担当課】学校施設課、学務保健課

概要 学校施設改築・長寿命化改修計画に基づき、老朽化対策として、学校施設の改築を進める。改築に当たり、バリアフリー化を含む、ユニバーサルデザインに配慮するとともに、災害時における避難所運営も見据えた整備を行う。

目標 児童・生徒が過ごす場であり、また、防災拠点として災害時に市民が安心して避難できる施設として維持・保全するため、施設の老朽化（長寿命化）対策を図る。

主な事業		
No.	事業名	事業概要
7-1	校舎等の改築	学校施設改築・長寿命化改修計画に基づき、学校施設の改築を着実かつ計画的に実施する。 新たな学校施設では、温かみのある落ち着いた空間で安全・安心な生活を送ることができる環境づくりを進めるとともに、児童・生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、多様な学習活動に柔軟に対応できる施設づくりを進めていく。また、教職員がそれぞれの力を発揮し、互いに連携できるよう、教職員にとっても働きやすい施設づくりを進めるなど、新しい時代の学びを実現する学校施設の整備を進める。
7-2	誰もが利用しやすい学校施設の整備	学校を改築する際等には、バリアフリー化を含むユニバーサルデザインを採用し、学校施設を利用する全ての人にとって優しい学校施設の整備を進める。
7-3	地域コミュニティの拠点となる学校施設の整備	学校施設は、地域住民にとって身近な公共施設であり、生涯学習・文化・スポーツなどの活動の場となるほか、災害時の避難所としても重要な役割を担っていることから、改築等の際には、地域利用を見据えた学校施設の整備を進める。
7-4	将来の人口動態に対応した学校施設の整備	改築等の際には、将来の人口動態などに応じ、空いた教室を他の用途に転用することや、他の公共施設との複合化などについて、関係課と連携しながら継続的な検討を行う。

成果指標					
	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	学校施設改築・長寿命化改修計画に示した整備スケジュールにおける校舎及び体育館の改築が完了した学校の進捗状況（完了数/対象数）				目標値
推移	0校/30校	2校/30校			4校/30校

評価							
令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.0						
<p>第一期改築実施校である府中第八小学校及び府中第一中学校の校舎及び体育館がしゅん工を迎え、無事に移転を完了することができた。児童・生徒や関係者に内覧会を行い、高い評価を受けた。</p>							
課題・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ●府中第八小学校及び府中第一中学校の外構工事に引き続き取り組むほか、第二期改築実施校である府中第三小学校及び府中第六小学校の改築工事に着手する。 ●改築費の増加について分析・評価を行い、学校施設改築・長寿命化改修計画の見直しに向け検討を進める。 						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●学校施設については、児童・生徒が安心して学習や生活できる学校教育の場であるとともに、災害時の避難所及び学校開放施設等の役割を担っていることから、多様な視点からの学校施設の計画・整備をお願いしたい。（小林） ●安心・安全な学校づくりを目指し、引き続き災害時を含めた学校施設の整備対策を進めていただきたい。新たな学校施設として、学童クラブ・放課後子ども教室と体育館の複合化の実現は、子育て支援等の他の行政課題への対応を見据えた対応と捉えた。（秋山） ●学校施設の維持管理が、計画に基づき、全ての学校でユニバーサルデザインやバリアフリー化を促進し、施設の保全に取り組んでいることが分かった。引き続き台風や地震などの災害に関する校舎の老朽化対策にも取り組んでほしい。（岡田） 						

事業別評価等					
7-1 校舎等の改築					
事業概要	<p>学校施設改築・長寿命化改修計画に基づき、学校施設の改築を着実かつ計画的に実施する。</p> <p>新たな学校施設では、温かみのある落ち着いた空間で安全・安心な生活を送ることができる環境づくりを進めるとともに、児童・生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、多様な学習活動に柔軟に対応できる施設づくりを進めていく。また、教職員がそれぞれの力を発揮し、互いに連携できるよう、教職員にとっても働きやすい施設づくりを進めるなど、新しい時代の学びを実現する学校施設の整備を進める。</p>				
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	学校施設改築・長寿命化改修計画に示した整備スケジュールにおける校舎及び体育館の改築が完了した学校数（上段：対象数、下段：完了数）				
	対象数 30校 完了数 0校	対象数 30校 完了数 2校			
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <p>●第一期改築実施校である府中第八小学校及び府中第一中学校の校舎及び体育館がしゅん工し、計画どおり実施できたため、B評価とする。</p>				
今後の方向性	●第一期改築校の整備状況を踏まえ、改築計画を見直し、各学校の持続可能な老朽化対策を目指す。				
7-2 誰もが利用しやすい学校施設の整備					
事業概要	<p>学校を改築する際には、バリアフリー化を含むユニバーサルデザインを採用し、学校施設を利用する全ての人にとって優しい学校施設の整備を進める。</p>				
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	学校施設改築・長寿命化改修計画に示した整備スケジュールにおける校舎及び体育館の改築が完了した学校数（上段：対象数、下段：完了数）				
	対象数 30校 完了数 0校	対象数 30校 完了数 2校			
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <p>●バリアフリー化を含む、ユニバーサルデザインの視点を反映させた第一期改築実施校である府中第八小学校及び府中第一中学校の校舎及び体育館がしゅん工し、計画どおり実施できたため、B評価とする。</p>				
今後の方向性	●今後改築を実施する学校においても、学校施設改築・長寿命化改修計画を踏まえて、バリアフリー化を含む、ユニバーサルデザインの視点を反映させる。				
7-3 地域コミュニティの拠点となる学校施設の整備					
事業概要	<p>学校施設は、地域住民にとって身近な公共施設であり、生涯学習・文化・スポーツなどの活動の場となるほか、災害時の避難所としても重要な役割を担っていることから、改築等の際には、地域利用を見据えた学校施設の整備を進める。</p>				
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	学校施設改築・長寿命化改修計画に示した整備スケジュールにおける校舎及び体育館の改築が完了した学校数（上段：対象数、下段：完了数）				
	対象数 30校 完了数 0校	対象数 30校 完了数 2校			
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <p>●第一期改築実施校である府中第八小学校及び府中第一中学校において、新しい体育館での社会教育団体等の地域利用を開始し、計画どおり実施できたため、B評価とする。</p>				
今後の方向性	●今後は、校舎内の諸室等の更なる開放に向けた検討を進める。				

事業別評価等						
7-4 将来の人口動態に対応した学校施設の整備						
事業概要	改築等の際には、将来の人口動態などに応じ、空いた教室を他の用途に転用することや、他の公共施設との複合化などについて、関係課と連携しながら継続的な検討を行う。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	改築に合わせ、他の公共施設と複合化した学校数					
	0校	1校				
実績値2	教室改修を行った学校数					
	0校	3校				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●第一期改築実施校である府中第八小学校において、学童クラブ・放課後子ども教室を体育館と複合化し、計画どおり実施できた。 ●府中市学校適正規模・適正配置検討協議会を開催し、学校施設の適正規模・適正配置の実施に向けた方策の検討を進めた。 ●以上の理由から、B評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●第二期改築実施校である府中第三小学校及び府中第六小学校においても、学童クラブ・放課後子ども教室を複合化し改築を進める。 ●学校施設の適正規模・適正配置については、答申提出に向けた協議を継続して行う。 					

取組名 **8 学校施設の整備** 【担当課】 学校施設課

概要 府中市学校施設大規模改修整備方針に基づき、改築の実施時期が遅い学校については、校舎トイレの便器の洋式化、床の乾式化等の改修や、屋上・屋根の防水に係る改修など、経年劣化に伴う大規模改修を計画的に実施する。

目標 教育施設として、子供たちが快適で安心して使用できるよう、府中市学校施設大規模改修整備方針に基づき、計画的かつ着実に老朽化対策を実施する。

主な事業		
No.	事業名	事業概要
8-1	経年劣化に伴う大規模改修	経年劣化に伴う不具合の発生により、児童・生徒の安全や学校運営に支障を来すおそれのある、屋上・屋根・外壁改修、空気調和設備の更新、体育館の床・プール改修などを計画的に実施する。
8-2	全市的な施策として短期間で実施すべき大規模改修	児童・生徒や保護者から、学校のトイレの改善を求められているため、便器の洋式化や床の乾式化等のトイレ改修を計画的に実施する。

成果指標					
	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	高圧受変電設備を更新した学校の割合（改築事業実施前の第2グループの学校）				目標値
推移	0%	0%			100%
指標名	校舎のトイレの洋式化が100%となった学校の割合				目標値
推移	24.2%	60.6%			100%

評価							
令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.0						
課題・今後の展開	府中市学校施設大規模改修整備方針に基づき、今後も継続して小・中学校の学習環境の改善を図り、児童・生徒の安全確保に努める。トイレ改修については、第二期改築実施校である府中第三小学校・府中第六小学校を除き、残り11校の改修を進める。						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●府中市学校施設大規模改修整備方針に基づき、継続して学習環境の改善・整備を進めるとともに、経年劣化対応については、児童・生徒の安全上の優先順位を含め、早急かつ着実に実施していただきたい。（小林） ●経年劣化に伴う教育環境の整備を計画的に進めていることが見える。安全な教育環境の整備のため、学校の状況に応じて迅速な対応を進めていただきたい。プール改修は、学校での水泳指導と施設管理運用面等での十分な調査・検討が必要であると考えている。（秋山） ●府中市学校施設大規模改修整備方針に基づき、学校施設の整備を適切に実施している。経年劣化対策としての便器の洋式化、床の乾式化、屋上・屋根の防水に係る改修など、児童・生徒の安定した学習環境を確保するために、今後も必要な施設整備を進めていただきたい。（岡田） 						

事業別評価等						
8-1 経年劣化に伴う大規模改修						
事業概要	経年劣化に伴う不具合の発生により、児童・生徒の安全や学校運営に支障を来すおそれのある、屋上・屋根・外壁改修、空調設備の更新、体育館の床・プール改修などを計画的に実施する。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	屋上・屋根・外壁改修を実施した学校数					
	小学校 1校 中学校 1校	中学校 2校				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	●中学校2校の外壁・屋上防水改修工事を実施し、予定通り工事を実施できたため、B評価とする。					
今後の方向性	●今後も継続して小・中学校の学習環境の改善を図り、児童・生徒の安全確保に努める。					
8-2 全市的な施策として短期間で実施すべき大規模改修						
事業概要	児童・生徒や保護者から、学校のトイレの改善を求められているため、便器の洋式化や床の乾式化等のトイレ改修を計画的に実施する。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	校舎のトイレの洋式化が100%となった学校数					
	小学校 6校 中学校 2校	小学校 7校 中学校 5校				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	●小学校6校、中学校4校のトイレ改修工事を実施した。第一期改築実施校である府中第八小学校・府中第一中学校についても、全て洋式化し、予定通り工事を実施できたため、B評価とする。					
今後の方向性	●今後も継続して小・中学校の学習環境の改善を図り、児童・生徒の安全確保に努める。					

取組名 **9 教育財産の管理と活用** 【担当課】
教育総務課、学校施設課、指導室

概要 小・中学校の施設・設備を常に良好な状態において管理し、その目的に応じて効率的に運用する。また、ICTを活用した教育を推進するための基盤となる環境を整備する。

目標 教育環境の充実に資するため、学校の施設・設備の維持管理を徹底するとともに、老朽化した備品は計画的に買換えによる更新を図る。また、子供の力を最大限に引き出す学びを実現するため、ICTを効果的に活用した教育活動が進められるよう、学習環境を整備する。教育センターについては、移転に伴い、相談機能の充実と不登校への対応強化などを図る。

主な事業		
No.	事業名	事業概要
9-1	教材等の整備	教員が授業で使用する教材の購入や、老朽化した備品の買換えのほか、ICT環境の整備や、学校図書館の充実など、教材等を常に良好な状態で管理し、効率的に運用する。
9-2	学校施設の維持管理	電気設備、給排水衛生設備、空調設備、消防設備などについては、法定点検や日常的な維持管理のほか、修繕や更新等を行い、適切な維持管理に努める。また、破損した備品の修繕等の対応を行う。
9-3	子供の安全と安心を支える様々な予防策	学校施設の機械警備や有人警備、通学路の防犯カメラの管理を行うほか、通学路の点検等を行う。また、災害時の児童・生徒、教職員のための備蓄品の整備を行う。
9-4	教育関連施設の管理と活用	教育センターや八ヶ岳府中山荘の維持管理を行うとともに、教育センターは移転に向けた検討を進め、八ヶ岳府中山荘は処分に向けた手続を進める。

成果指標					
	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	タブレットを使用した授業の実施率				目標値
推移	未調査	小学校 52.8% 中学校 45.9%			100%

評価							
令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.0						
課題・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ●教材等の整備については、老朽化した備品が多いことが課題となっているが、予算的な限りもあるため、学校の要望を踏まえつつ優先度の高いものから対応する。 ●児童・生徒の安全確保については継続して実施する。 ●教育センターの移転や八ヶ岳府中山荘の処分等に向けては、調査や工事等の具体的な取組を実施する。 						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●社会の変化と将来を見据えた教育財産の維持・管理を検討し、児童・生徒の学習環境の充実と向上を継続してほしい。個別最適な学習・協働という視点から、ICTの効果的な活用と実践の共有化とともに、情報モラルに関する指導の充実を期待する。（小林） ●ICT環境及び学校図書館の整備は、個々の児童・生徒の学びの広がりには不可欠である。支援員・学校司書の配置を含め充実していただきたい。新たな教育センターが不登校対応・相談機能の強化とともに、府中の教育発信の場として機能することを期待する。（秋山） ●児童・生徒の資質を最大限に引き出すためのICTを活用した教育活動の更なる進展が期待される。また、今後も教育センターが、不登校を始め様々な教育相談所としての機能が果たせるよう、必要な施設整備をお願いしたい。（岡田） 						

事業別評価等						
9-1 教材等の整備						
事業概要	教員が授業で使用する教材の購入や、老朽化した備品の買換えのほか、I C T環境の整備や、学校図書館の充実など、教材等を常に良好な状態で管理し、効率的に運用する。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	学校図書館図書標準による蔵書冊数を満たしている学校の割合					
	90.9%	87.9%				
実績値2	I C T支援員の学校訪問回数					
	1,980回	2,376回				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の要望を踏まえて備品の買換え等を実施したほか、各学校に教材や図書購入に係る予算を配当し、優先度の高い教材や図書等を購入できた。 ●I C T環境の整備として、出欠席等の保護者との連絡手段をデジタル化するスマート連絡帳を導入し、保護者及び教職員の利便性の向上を図ったほか、I C T支援員を配置し、I C Tの活用を促進した。 ●以上の理由から、B評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も学校の要望を踏まえて、優先度の高い備品から順次更新する。また、I C Tの更なる活用に向け、セキュリティポリシーの見直し及びネットワークの整備に取り組む。 					
9-2 学校施設の維持管理						
事業概要	電気設備、給排水衛生設備、空調設備、消防設備などについては、法定点検や日常的な維持管理のほか、修繕や更新等を行い、適切な維持管理に努める。また、破損した備品の修繕等の対応を行う。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	樹木の刈込みについて、学校からの要望に対する対応割合					
	71%	81%				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●清掃等の日常的な維持管理を行うほか、各設備の点検を実施し、不具合箇所を早期発見・早期対応することで、学校運営を止めることなく施設管理を行うことができたため、B評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も、学校施設の点検等を確実にを行い、学校からの要望を踏まえながら、適切な学習環境を維持する。 					

事業別評価等						
9-3 子供の安全と安心を支える様々な予防策						
事業概要	学校施設の機械警備や有人警備、通学路の防犯カメラの管理を行うほか、通学路の点検等を行う。また、災害時の児童・生徒、教職員のための備蓄品の整備を行う。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	防犯ブザーの貸出個数					
	2,550個	2,408個				
実績値2	災害時備蓄品の購入数（児童・生徒及び教職員用）					
	ライスクッキー63,600食	水 20,904本 アルファ米 63,900食				
実績値3	通学路点検の実施校数					
	22校 ※緊急合同点検のため全校で実施	7校				
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の安全確保のため、学校施設の機械警備や有人警備を継続して実施したほか、防犯ブザーの貸出しなどを行った。 ●通学路点検については、令和3年度は緊急合同点検として全校で実施したが、令和4年度から3年間で全22校を実施する予定としており、令和4年度は7校で実施した。 ●災害時の児童・生徒、教職員のために配備しているペットボトル水とアルファ米の一部が消費期限切れとなることに伴い、全校で入替えを行った。 ●継続した取組を実施できたことから、B評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も継続して児童・生徒の安全確保のための取組を行う。なお、令和5年度にはアルファ米の一部が消費期限切れとなるため、全校で入替えを実施する。 					
9-4 教育関連施設の管理と活用						
事業概要	教育センターや八ヶ岳府中山荘の維持管理を行うとともに、教育センターは移転に向けた検討を進め、八ヶ岳府中山荘は処分に向けた手続を進める。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	教育センター移転に向けた取組					
	教育センター移転の方向性の検討・決定	教育センターの基本・実施設計の実施				
実績値2	八ヶ岳府中山荘の処分に向けた動き					
	小学校4校で民間施設を活用した新たなセカンドスクールを試行実施した。	令和5年度から全校で民間施設を活用した新たなセカンドスクール事業を開始することとした。それを踏まえて、処分を検討した。				
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教育センターの移転に向けて、新たな教育センターの設計を行ったほか、機能等の整理について検討を進めた。 ●八ヶ岳府中山荘は、建物の劣化状況等を現地で調査したところ、危険度が高いため、受付を休止し、今後の処分等について検討を行った。 ●両施設とも移転や処分等に向けた調査や検討を継続して行ったことから、B評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後は、令和7年度の教育センターの移転に向けて整備工事等を実施するほか、八ヶ岳府中山荘については、今後の処分等についてサウンディング調査を実施し、より具体的な検討を行う。 					

取組名 10 学校給食の運営

【担当課】 学務保健課

概要 学校給食衛生管理基準や大量調理施設衛生管理マニュアルに適合した施設運営を行い、安全・安心でおいしい給食の提供を継続する。

目標 成長期にある子供たちのため、栄養バランスの取れた安全・安心でおいしい給食を提供できるよう、学校給食衛生管理基準等に適合した施設の管理運営を行う。

主な事業

No.	事業名	事業概要
10-1	安全・安心でおいしい給食の提供	学校給食衛生管理基準や、学校給食における食物アレルギー対応方針を遵守し、学校と連携して安全・安心でおいしい給食の提供に取り組む。
10-2	学校給食センターの管理運営	学校給食センター衛生管理マニュアルに沿った業務運営を行うとともに、省エネルギーに配慮した施設管理を行う。

成果指標

	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	数値での評価がなじまないため、設定なし				目標値
推移					

評価

令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.0						
課題・今後の展開	<p>児童・生徒の心身の健全な発育のため、安全・安心でおいしい学校給食の提供を目指して、学校給食衛生管理基準や、食物アレルギー対応方針を遵守し、安全に学校給食の提供を行うとともに、省エネルギーに配慮した施設の維持管理及び学校給食の運営を行うことができた。</p> <p>稼働から7年目を迎える学校給食センターでは、施設、設備に不具合が生じ始めている。給食を安定して提供するため、施設の適切な維持管理・運営を行う。</p>						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●今後とも施設・食材・調理等の安全点検と衛生管理を進めるとともに、食物アレルギー対応方針の徹底及び児童・生徒の食物アレルギー状況の把握を通して、安心・安全な給食提供を継続してほしい。光熱費の削減については評価できる。（小林） ●運営体制が整備されたセンター方式の学校給食の実施は府中の特徴であると捉えている。「顔の見える給食室」を意識し、給食の運営と食育とのつながりを充実させていただきたい。地場産食材の活用増加、栄養教諭の配置等、更なる検討を期待する。（秋山） ●学校給食衛生管理基準や大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた運営体制により、安全・安心でおいしい給食の提供に取り組んでいる点は高く評価できる。食物アレルギーなどの問題は、子供の健康に大きく影響を与えるので、今後も具体的な対策を検討して頂きたい。（岡田） 						

事業別評価等						
10-1 安全・安心でおいしい給食の提供						
事業概要	学校給食衛生管理基準や、学校給食における食物アレルギー対応方針を遵守し、学校と連携して安全・安心でおいしい給食の提供に取り組む。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	食材の産地公表					
	月1回	月1回				
実績値2	地場産食材の使用割合					
	6.6%	6.8%				
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食材の産地等については、給食センターのホームページ及び献立表で公表した。 ●食物アレルギーについては、対応方針に基づく対応食（除去食、代替食）の提供を行った。 ●学校給食衛生管理基準を遵守し、学校給食における食物アレルギー対応方針に基づいたアレルギー対応食等の対応を行うことができた。 ●以上の理由から、B評価とする。 					
今後の方向性	●引き続き定期的な産地の公表及び食物アレルギー対応方針に基づく対応食の提供に努める。					
10-2 学校給食センターの管理運営						
事業概要	学校給食センター衛生管理マニュアルに沿った業務運営を行うとともに、省エネルギーに配慮した施設管理を行う。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	エネルギー使用量（原油換算値）					
	1,476,770.5kl	1,399,744.2kl				
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校給食センター衛生管理マニュアルに基づき、日常点検表による室温や冷蔵庫の温度管理、清掃状況等の確認を行った。 ●光熱水費は献立により変動するが、日常の節電・節水を職員、委託事業者に呼び掛け、目標の令和3年度比1%削減を達成した。 ●以上の理由から、B評価とする。 					
今後の方向性	●引き続き節電・節水を徹底し、エネルギー使用量の更なる削減を目指す。					

取組名 11 市立幼稚園の運営

【担当課】 学務保健課

概要 心身ともに健やかで感情豊かな幼児が育ち、家庭における基本的な生活習慣を身につける。

目標 幼児教育の充実を図るとともに、園児の健康観察・保持増進、幼稚園教諭の資質向上を図る。また、令和4年度末の幼稚園の閉園に際し、閉園事業の実施や閉園記念品の作成を行う。

主な事業

No.	事業名	事業概要
11-1	市立幼稚園運営事業（令和4年度のみ）	義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する。

成果指標

	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	令和4年度までの事業のため、設定なし				目標値
推移					

評価

令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.0						
最後の市立幼稚園であるみどり幼稚園は令和4年度末で閉園となったが、滞りなく最後の園児を送り出すことができた。							
課題・今後の展開	令和4年度末をもって市立幼稚園は閉園となるため、当該取組は本年度限りとなる。						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●市立幼稚園は閉園となったが、今後も私立保育園・幼稚園と小学校との連携を密に、幼児教育の充実を期待する。（小林） ●幼児教育と初等教育との円滑な結びつきが注目されている。今後は私立幼稚園及び保育園と連携した幼保小連携教育の推進が求められる。府中市として、幼児教育の今後をどのように展開するのか、その方向性を明確に示す必要がある。（秋山） ●令和4年度末をもって最後の市立幼稚園であるみどり幼稚園が閉園となり、最後の園児を送り出すことでこの取組が無事終了したことが分かった。今後も市全体の幼児教育の充実化を図るとともに、園児の健康の向上のために、更なる指導・助言、支援に努めてほしい。（岡田） 						

事業別評価等

11-1	市立幼稚園運営事業（令和4年度のみ）						
事業概要	義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する。						
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
	数値での評価がなじまないため、設定なし						
評価・評価の理由	B	事業を予定通り実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●みどり幼稚園において、支援が必要な幼児に特別支援助員を配置した。 ●幼・小連携の一環として、府中第二小学校と交流を図った。 ●令和4年度末の閉園を控え、1クラスでの幼稚園運営となり事業の縮小化もあったが、例年と同様の事業を進めることができたため、B評価とする。 						

取組名	12 学習機会の提供と環境づくりの推進	【担当課】 生涯学習課
------------	----------------------------	----------------

概要	生涯学習センターの指定管理者制度による運営や文化センター内にある公民館の活用、市民ボランティア・大学等との連携・協働による取組など、事業者や市民等が持っている力をいかして社会教育環境の充実に努めるとともに、市民の学び返しに係る連携の推進に向けた仕組みづくりや多様な媒体を活用した広報等を行う。
-----------	--

目標	市民の誰もが等しく学習できる環境が整っており、これらの機会を通じて世代を超えた交流活動が行われるとともに、学び返しにより学んだことが地域にいかされるまちづくりを推進する。
-----------	---

主な事業		
No.	事業名	事業概要
12-1	青少年団体の育成	市内で活動している青少年音楽団体が一堂に会し、日頃の練習の成果を発表する。あわせて、演奏技術の向上を目指すとともに音楽を通じた青少年の交流の場を提供する。
12-2	生涯学習機会の創出	生涯学習センターの管理運営（講座等の実施を含む。）、生涯学習活動を担う人材の育成と活用を行うとともに、社会教育法に基づき、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行う。
12-3	心身障害児・者余暇学習支援事業	心身障害児童・生徒地域活動は府中地区学校五日制連絡会に委託し、あすなろ学級は登録ボランティアを中心に行い、文化・スポーツ・レクリエーション活動等多彩な地域活動への参加の機会と場の提供を行う。

成果指標					
	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	生涯学習センターの利用者満足度				目標値
推移	91%	86%			現状維持
指標名	生涯学習センターの講座への受講者数				目標値
推移	35,129人	45,718人			65,000人
指標名	生涯学習サポーター登録者数				目標値
推移	73人	57人			85人

評価							
		B	取組を予定通り実施できた				
	2.0						
令和4年度の評価	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症のまん延状況により、中止を余儀なくされた事業もあったが、感染防止対策を講じながら、新たな講座の実施、内容の充実、創意工夫などにより事業を継続した。 ●生涯学習サポーターは、更新のタイミングにより登録者数が減少したが、文化センターやPTAからの依頼により、適切に派遣した。 						
課題・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習サポーターの登録内容と市民のニーズの整合性が取れているかどうかが課題であるため、生涯学習審議会等での意見を基に、より市民が利用しやすい形を模索する。 ●生涯学習センターの講座については、引き続き、魅力的な講座を実施するとともに、多様な世代が受講しやすい講座を検討する。 						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習サポーターの登録に向けては、生涯学習審議会等での意見を踏まえた市民ニーズへの対応とともに、各サポーター登録者の幅広い知識・技能等を反映できる事業展開を期待する。（小林） ●青少年、障害児・者を含め希望する市民誰もが学ぶことのできる機会を広く展開している点を評価する。生涯学習の希望者に適切に情報を提供し、その指導役を適切に結びつけることの充実がますます求められる。コーディネーターの役割に期待する。（秋山） ●市の生涯教育の向上のために、公民館の活用、市民ボランティアの育成など、包括的なアプローチがとられていることは高く評価される。青少年音楽団体の演奏会の開催や心身障害児・生徒地域活動の支援なども積極的に展開されていることが分かった。（岡田） 						

事業別評価等						
12-1 青少年団体の育成						
事業概要	市内で活動している青少年音楽団体が一堂に会し、日頃の練習の成果を発表する。あわせて、演奏技術の向上を目指すとともに音楽を通じた青少年の交流の場を提供する。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	青少年音楽祭参加団体数					
	中止	24団体				
実績値2	青少年音楽祭観覧者数					
	中止	1,893人				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な感染症対策を講じた上で、事業の趣旨である青少年の交流や技術の向上につながるイベントを実施することができた。 ●演奏順を市が決めることで効率的な舞台転換を行うことができ、実施時間の短縮につながった。 ●感染症拡大防止のため、観覧者の制限、内容の変更等を行いながら実施したことから、B評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後は、音楽祭の長時間化を解消するため、出演順を工夫して効率的に舞台転換を行うなど、適切な時間での運営を心掛けるとともに、来場者について、出演関係者以外の一般の方も多く参観できるよう、広報等を工夫する。 					
12-2 生涯学習機会の創出						
事業概要	生涯学習センターの管理運営(講座等の実施を含む。)、生涯学習活動を担う人材の育成と活用を行うとともに、社会教育法に基づき、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行う。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	生涯学習センター年間利用者数					
	194,052人	309,287人				
実績値2	全学的家庭教育学級の受講者数					
	27人	39人				
実績値3	PTA家庭教育学級の受講者数					
	598人	842人				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習センターの利用者数について、施設利用と講座受講がともに前年度を上回り、新型コロナウイルス感染症の影響から脱しつつある。新たな市民ニーズや地域の課題を捉えて、生涯学習機会の創出に努める。 ●全学的家庭教育学級については、食育やアンガーマネジメントをテーマに、オンラインと対面のハイブリッド形式や、託児付きの対面形式で実施した。今後も市民が参加しやすい日時、形式、興味を引くような内容での実施を検討する。 ●PTA家庭教育学級については、新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和に伴い、実施校・受講者ともに増加した。 ●感染症対策を実施しながら計画どおり実施できたため、B評価とする。 					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後は各校でのPTAの状況を整理し、学校区ごとの合同実施などの方法について、PTA連合会と調整しながら検討する。 					

事業別評価等					
12-3 心身障害児・者余暇学習支援事業					
事業概要	心身障害児童・生徒地域活動は府中地区学校五日制連絡会に委託し、あすなる学級は登録ボランティアを中心に行い、文化・スポーツ・レクリエーション活動等多彩な地域活動への参加の機会と場の提供を行う。				
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	心身障害児童・生徒地域活動事業の参加者数				
	138人	550人			
実績値2	障がい者成人教室（あすなる学級）参加者数				
	58人	494人			
評価・評価の理由	B	事業を予定通り実施できた			
	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な感染症対策を講じながら、委託団体及びボランティアスタッフと連携し、心身に障害のある児童・生徒の地域活動を実施するとともに、心身に障害のある成人の余暇学習として、障がい者成人教室（あすなる学級）の支援活動を引き続き実施した。 ●両事業とも、新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和に伴い、計画どおり実施することができ、参加者が増加した。 ●以上の理由から、B評価とする。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者成人教室（あすなる学級）の対象者は知的障害のある市民等であるが、運営を担うボランティアスタッフにとっても、生涯学習や学び返しを实践する機会となっている。障害のある方の大切な学びの場であるため、今後も福祉施策ではなく、生涯学習として長期にわたる継続実施を目指す。 				

取組名 **13 図書館サービスの充実** 【担当課】 図書館

概要 時代や市民のニーズに沿った様々な分野、種類の資料を収集・提供するとともに、幅広い年代に向けた取組の実施や様々な方法での情報発信を行う。さらに、学校等と連携し、アウトリーチ活動や調べもの学習を含めた子供の読書活動を推進するとともに、レファレンスの利便性の向上を図り、市民の知的・文化的活動や様々な問題解決への支援を行う。

目標 市民が図書館で収集、整理、保存されている図書資料や視聴覚資料などの情報を活用して、知的・文化的な生活を営むとともに、イベントや講座などの学習活動やレファレンスサービスを利用して、生活上の様々な課題の解決に取り組めるように、図書館サービスの充実を図る。

主な事業		
No.	事業名	事業概要
13-1	中央図書館運営事業	資料や情報の収集・整理・保存・提供を行いながら、電子情報等幅広い分野の情報提供やインターネットなどの利用環境を強化し、情報社会に即した情報発信拠点としての役割を担う。
13-2	地区図書館運営事業	市内12館の地区図書館では、地域の方の身近な情報拠点として、特集展示や子供のためのおはなし会など地域に根ざした図書館サービスを展開する。
13-3	レファレンスサービス事業	国立国会図書館・東京都立図書館、他自治体や大学等の図書館とのネットワークの充実や各種データベースの利用、地域資料の収集・データ化を図り、市民が学習や仕事で必要とする資料や情報を提供する。
13-4	児童・青少年サービス事業	子供の読書環境をより一層整備し、子供が本を楽しみ、読書する力を身に付け、個性豊かで健やかに成長し、人生をより豊かに生きることを目的とする事業を展開・提供する。また、関係機関と連携した子ども読書活動を推進する。

成果指標					
	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	市民1人あたりの年間図書等貸出数				目標値
推移	7.3点	6.1点			8.2点
指標名	図書館利用者満足度				目標値
推移	89.2%	89.2%			90%以上
指標名	レファレンス件数				目標値
推移	4,841件	3,216件			5,444件

評価							
令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.3						
課題・今後の展開	中央図書館では、休館期間のうち令和4年10月から令和5年1月末まで、中央文化センター内に中央図書館臨時窓口を開設した。また、令和5年3月のリニューアルオープンに合わせ、ふちゅう電子図書館や座席申込システムなど、新たなサービスを開始したほか、リニューアルオープンイベントを開催した。						
	複合施設の特徴をいかした、他の施設との連携事業の実施や新たなホームページを活用した周知を行うほか、図書館の事業やサービスの点検及び評価に係る仕組みづくりを確立し、図書館協議会の意見を参考にして評価するなど、利用者の増加や読書活動の推進を図る。						

有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の改修やシステム更新を行う中で、市民への影響を最小限に抑えて図書館事業を継続できたことは評価できる。今後も幼稚園、保育園、学校等と連携した読書活動支援や様々な年代に合わせたお話し会など、子供が本を楽しむ機会の拡充をお願いしたい。(小林) ●中央図書館のリニューアルにより導入された、ふちゅう電子図書館及び座席申込システムは活用しやすいサービスであると評価する。図書館が複合施設の中にある利点をいかし、全ての市民にとって身近な存在の魅力的な図書館であることを期待する。(秋山) ●市の図書館が資料や情報の収集・整理・保存・提供に取り組み、インターネット環境を整えることで、一人でも多くの市民が安心して利用できることを期待している。また、中央図書館のリニューアルオープンに合わせたふちゅう電子図書館や座席申込システムの導入など、新たなサービスを開始したことが高く評価されよう。(岡田)
-------	---

事業別評価等						
13-1 中央図書館運営事業						
事業概要	資料や情報の収集・整理・保存・提供を行いながら、電子情報等幅広い分野の情報提供やインターネットなどの利用環境を強化し、情報社会に即した情報発信拠点としての役割を担う。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
中央図書館開館日数						
	●開館日数 321日 ●来館者数 511,364人 ●貸出利用者数 321,780人	●開館日数 300日(臨時窓口含む。) ●来館者数 323,004人 ●貸出利用者数 201,418人				
中央図書館図書等貸出数						
実績値2	●一般書 565,668冊 ●児童書 224,206冊 ●視聴覚 123,342点 ●団体 3,241冊 (44団体)	●一般書 361,374冊 ●児童書 138,258冊 ●視聴覚 72,509点 ●団体 5,253冊 (48団体)				
中央図書館登録者数						
実績値3	88,318人	84,839人				
評価・評価の理由	A 事業を拡充して実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の改修及び図書館情報システムの更新に伴い令和4年10月から令和5年2月まで休館したため、実績値が減少した。 ●休館期間のうち、令和4年10月1日から令和5年1月31日まで中央文化センター内に中央図書館臨時窓口を開設した。 ●令和5年3月にリニューアルオープンし、ホームページもリニューアルしたほか、ふちゅう電子図書館や座席申込システムなど新たなサービスを開始することができた。 ●以上の理由から、A評価とする。 					
今後の方向性	●今後は、所在施設の市民会館やレストランと連携した企画などを実施し、利用者の増加を図る。					

事業別評価等						
13-2 地区図書館運営事業						
事業概要	市内12館の地区図書館では、地域の方の身近な情報拠点として、特集展示や子供のためのおはなし会など地域に根ざした図書館サービスを展開する。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	地区図書館開館日数					
	●開館日数 平均316日 ●貸出利用者数 308,801人	●開館日数 平均294日 ●貸出利用者数 308,171人				
実績値2	地区図書館図書等貸出数					
	●一般書 568,291冊 ●児童書 384,773冊 ●視聴覚 21,017点	●一般書 596,170冊 ●児童書 383,044冊 ●視聴覚 12,964点				
実績値3	地区図書館登録者数					
	49,641人	48,341人				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	●図書館情報システムの更新に伴い令和5年2月に休館したが、中央図書館休館中の利用者が増加し、一般書の貸出数については約5%増加したことなどから、B評価とする。					
今後の方向性	●今後は、所在施設のイベントと連携した企画などを実施し、利用者の増加を図っていく。					
13-3 レファレンスサービス事業						
事業概要	国立国会図書館・東京都立図書館、他自治体や大学等の図書館とのネットワークの充実や各種データベースの利用、地域資料の収集・データ化を図り、市民が学習や仕事で必要とする資料や情報を提供する。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	レファレンス講座					
	参加者数 21人	休止				
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた					
	●令和4年度は、施設の改修及び図書館情報システムの更新に伴う閉館により講座は休止したが、開館中のレファレンスは通常どおり行ったことから、B評価とする。					
今後の方向性	●令和5年度も通常どおりレファレンスを行うとともに、講座も再開する。					

事業別評価等					
13-4 児童・青少年サービス事業					
事業概要	子供の読書環境をより一層整備し、子供が本を楽しみ、読書する力を身に付け、個性豊かで健やかに成長し、人生をより豊かに生きることを目的とする事業を展開・提供する。また、関係機関と連携した子ども読書活動を推進する。				
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	おはなし会等参加人数				
	<ul style="list-style-type: none"> ●定例おはなし会 93回 509人 ●ちいさい子のためのおはなし会 59回 409人 ●よむよむ探検隊 4回 31人 ●出前講座 1回 12人 ●赤ちゃん絵本文庫 19回 339人 	<ul style="list-style-type: none"> ●定例おはなし会 170回 1,092人 ●ちいさい子のためのおはなし会 150回 1,063人 ●よむよむ探検隊 2回 11人 ●出前講座 1回 16人 ●赤ちゃん絵本文庫 38回 849人 			
実績値2	学級貸出冊数				
	9,625冊	10,628冊			
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた				
	<ul style="list-style-type: none"> ●令和3年度の上期は、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの事業を休止したが、令和4年度は2月の全館休館期間を除き、ほぼ通年で事業を実施することができた。 ●中央図書館は、施設の改修等による休館期間があったが、近隣公共施設で一部サービスを継続して行った。 ●以上の理由から、B評価とする。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●地区図書館においては、令和5年度に各施設のイベントと連携して行う事業を計画している。 ●令和6年度から令和11年度までを計画期間とする第5次府中市子ども読書活動推進計画を策定する。 				

取組名 14 文化施設の有効活用

【担当課】

ふるさと文化財課、美術館

概要 郷土の森博物館及び府中市美術館については、多様化するニーズに柔軟に対応できるよう、様々な事業展開の方法を検討するとともに、効果的な広報・周知方法を取り入れ、情報発信に関する環境の整備を進める。また、各施設の老朽化対策については、運営面や財政面への影響を最小限に抑えながら、計画的に施設改修を行う。

目標 文化・芸術に係る鑑賞や学習、文化・芸術活動に係る発表等に供することにより、市民が身近な場所で文化・芸術に親しむ機会を提供し、文化意識の醸成を図る。

主な事業

No.	事業名	事業概要
14-1	郷土の森博物館管理運営事業	老朽化に伴う対策として、計画的に施設改修を進める。また、学校教育との連携を深めるほか、展示室・プラネタリウム・園内の回遊性の促進を図る。
14-2	美術館運営事業	国内外の優れた美術作品を紹介する企画展を実施するとともに、全館的な大規模改修を検討する。

成果指標

	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	郷土の森博物館入場者数				目標値
推移	231,256人	350,447人			333,500人
指標名	府中市美術館入場者数				目標値
推移	202,337人	245,682人			310,000人

評価

令和4年度の評価	A	取組を拡充して					
	3.0	実施できた					
令和4年度の評価	<ul style="list-style-type: none"> ●郷土の森博物館の年間入場者数は、平成13年度の料金体系改定以降、過去最高を記録した。 ●美術館では、アーツ・アンド・クラフツ展が開館以来、5番目に多い鑑賞者数を記録した。 						
課題・今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ●郷土の森博物館は、令和5年9月以降、劣化部位の改修工事のため本館を休館するが、園内を活用した展示会や事業、アウトリーチ活動の推進等を通して、引き続き博物館活動及びPR活動を行う。また、博物館機能を長期的に維持するため、引き続き施設の老朽化対策を検討し、計画的な修繕等を行う。 ●美術館は、魅力ある美術作品を紹介する展覧会や、教育普及事業を継続して実施する。併せて、今後必要となる大規模改修に向けて、施設面の課題を整理する。 						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●市の文化施設は、様々な文化や芸術に身近に触れることで、心の安らぎと市民の憩いの場としての空間を醸し出してくれると考える。社会の変化と多様化するニーズに柔軟に対応した展示・運営等を期待する。（小林） ●各文化施設の実績の数値上の向上の要因を分析し、老朽化した施設の改修も含め、市民の憩いの場として魅力的な文化施設の充実を図っていただきたい。学校協力事業の増加、プラネタリウムのオリジナル番組の工夫による事業の成果を評価する。（秋山） ●市の文化施設である郷土の森博物館や府中市美術館などにおいて、市民が親しんで地元の文化や芸術に触れるために事業を多様化している努力が感じられる。関連施設の劣化部位の改修工事を通じて、今後も市民を対象とした様々な文化活動が持続的に展開されることを期待している。（岡田） 						

事業別評価等						
14-1 郷土の森博物館管理運営事業						
事業概要	老朽化に伴う対策として、計画的に施設改修を進める。また、学校教育との連携を深めるほか、展示・プラネタリウム・園内の回遊性の促進を図る。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	学校協力事業（体験学習、出前授業など）					
	27回	55回				
実績値2	プラネタリウム観覧者数					
	46,609人	69,549人				
評価・評価の理由	A 事業を拡充して実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●学校協力事業は、可能な限り受入れを行った。 ●プラネタリウムは、オリジナル番組が好評を博し、平成30年度のリニューアル以降最多の観覧者数を記録した。 ●新型コロナウイルス感染症の影響により事業の一部を縮小したが、市民ニーズに合致した事業を行うことができたことにより、各種実績の増加につながったと考えられるため、A評価とする。 					
今後の方向性	●今後も、博物館が身近で安全な学び・行楽の場となるよう、事業の充実を図る。					
14-2 美術館運営事業						
事業概要	国内外の優れた美術作品を紹介する企画展を実施するとともに、全館的な大規模改修を検討する。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	展覧会観覧者数（企画展・所蔵品展・常設展の観覧者数の合計）					
	144,530人	163,008人				
実績値2	教育普及事業参加者数					
	45,920人	61,266人				
実績値3	市民ギャラリー入場者数					
	11,887人	21,408人				
評価・評価の理由	A 事業を拡充して実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●秋の大型展覧会アーツ・アンド・クラフツ展が開館以来5番目に多い来館者数を記録したことを始め、各企画展とも好評を博した。また、教育普及事業参加者数、市民ギャラリー観覧者数がともに前年度を上回った。 ●各実績の数値がいずれも前年度を上回ったため、A評価とする。 					
今後の方向性	●今後は、魅力ある美術作品を紹介する展覧会や、教育普及事業を継続して実施するとともに、全館的な大規模改修を検討する。					

取組名 15 歴史文化遺産の保存と活用

【担当課】 ふるさと文化財課

概要

ふるさと府中歴史館、国史跡武蔵国府跡（国司館地区）等において、魅力的な展示やイベントを開催するとともに、市内の歴史文化遺産を活用した地域づくりや魅力発信を行う。また、学術的な調査研究を行い、「新 府中市史」を編集・発行するとともに、調査研究の成果を、市史資料編・通史編・報告書などで紹介する。

目標

歴史文化遺産の保存と歴史資料の活用等により、多くの人々が本市の歴史文化遺産について学び、その価値に対する理解を深め、郷土愛を育む。

主な事業

No.	事業名	事業概要
15-1	ふるさと府中歴史館管理運営事業	発掘調査成果に関する展示等のほか、歴史的公文書の保存・公開を行う。
15-2	武蔵国府跡保存活用事業	にぎわいと魅力のあるまちづくりにつながるよう、国史跡武蔵国府跡（国司館地区）の第二期整備に向けた取組を進める。
15-3	府中市史編さん事業	予定している市史刊行物全ての発行に向け、計画的に調査研究・編集・発行を行う。

成果指標

	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	ふるさと府中歴史館入場者数				目標値
推移	68,395人	161,020人			96,000人
指標名	「新 府中市史」の刊行物の発行数				目標値
推移	新刊として資料編1巻、報告書1冊、市史研究1冊を発行	新刊として資料編2巻、市史研究1冊を発行			R6に市史編さん事業は完了、刊行物としては全31巻を発行予定

評価

令和4年度の評価	B	取組を予定通り					
	2.3	実施できた					
課題・今後の展開	ふるさと府中歴史館にマイナンバーカードの交付窓口及びマイナポイントの相談窓口が設置されたことに伴って、入場者数が大幅に増加し、観覧目的の来館者以外にも事業を知ってもらう機会を得た。また、新型コロナウイルス感染症と経済活動の両立に向け、行動制限の緩和が図られたため、イベントを実施することができ、広く魅力の発信を図ることができた。						
有識者意見	引き続き、発掘調査成果の公開展示を始め、くらやみ祭などのイベントに合わせた展示等を行う。今後も身近な教育の場となるよう努め、来館者の増加を図る。						
	<ul style="list-style-type: none"> ●発掘調査や武蔵国府跡等、本市ならではの歴史文化遺産を活用した事業は、郷土への愛着と誇りを培う機会となり、民間活力を活用したイベント等の開催も評価できる。今後も、関係部署と連携した魅力ある地域づくりを願っている。（小林） ●民間活力を活用した実証実験イベントは、新たな運営の事例として注目したい。今後も、市民が府中市の歴史や武蔵国府跡について興味を持ち、理解を進め、親しみを持って府中の歴史文化遺産に接することができるような事業の展開を期待する。（秋山） ●ふるさと府中歴史館、国史跡武蔵国府跡（国司館地区）を活用して、市民が歴史文化遺産について理解を深め、郷土愛が醸成されるような各種イベントが実施されていることを高く評価する。今後も継続した発掘調査成果の展示や、歴史的公文書の保存・公開がなされることを期待している。（岡田） 						

事業別評価等						
15-1 ふるさと府中歴史館管理運営事業						
事業概要	発掘調査成果に関する展示等のほか、歴史的公文書の保存・公開を行う。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	1階国府資料展示室観覧者数					
	56,996人	68,774人				
実績値2	1・2階公文書史料室等来場者数					
	11,399人	13,755人				
評価・評価の理由	A 事業を拡充して実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●発掘調査に少しでも興味を持ってもらうことを目的に、夏休み期間中等に子供向けのワークショップを開催した。 ●マイナンバーカードの交付やマイナポイントの相談窓口の混雑解消のため、1階に窓口を設置したことにより、来館したことがない方にも施設について知ってもらう良い機会になった。 ●各種取組により来館者数が大きく増加したことから、A評価とする。 					
今後の方向性	●今後も、同様の取組を進める。					
15-2 武蔵国府跡保存活用事業						
事業概要	にぎわいと魅力のあるまちづくりにつながるよう、国史跡武蔵国府跡（国司館地区）の第二期整備に向けた取組を進める。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	国司館と家康御殿史跡広場入園者数					
	30,236人	43,848人				
評価・評価の理由	A 事業を拡充して実施できた					
	<ul style="list-style-type: none"> ●民間活力を活用した単発の実証実験イベントを2回（「めざせ！G1グルメフェス in 国司館と家康御殿史跡広場」・「府中お月見ナイトビアガーデン」）行った。 ●新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったイベントもあったが、来場者は増加傾向にあることから、A評価とする。 					
今後の方向性	●今後は、中長期的なイベントの開催や団体利用の検討を行い、第二期整備につなげる。					
15-3 府中市史編さん事業						
事業概要	予定している市史刊行物全ての発行に向け、計画的に調査研究・編集・発行を行う。					
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	市史刊行物の種類（既刊の頒布刊行物の種類）					
	19種	22種				
評価・評価の理由	C 事業を十分に実施できなかった					
	<ul style="list-style-type: none"> ●令和4年度において「新 府中市史」の新刊として資料編等3冊を発行したが、予定していた通史編3冊を発行することができなかったため、C評価とする。 					
今後の方向性	●令和4年度に発行を予定していた通史編3冊を含め、令和5年度は通史編8冊の発行を目指す。					

取組名 **16 スポーツ活動の普及・促進** 【担当課】 スポーツタウン推進課

概要 年齢や障害の有無などに関わらず、市民の誰もがそれぞれの体力や能力・年齢・目的に応じ、いつでも、どこでも、いつまでも、安全にスポーツを楽しむことができるよう、生涯スポーツの体制や取組の充実を図る。また、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックを通して積み上げてきたボランティア育成などの取組を、レガシーとしていかしながら、競技スポーツから気軽にスポーツに親しむことのできるイベントまで、多様な事業の展開を図る。

目標 「スポーツタウン府中」の発展のため、年齢や障害の有無などに関わらず、全ての市民が自身に合ったスポーツ活動に親しみ、心身ともに健康で活力に満ちた生活を営めるよう、スポーツ活動の普及・促進を図る。

主な事業		
No.	事業名	事業概要
16-1	地域スポーツ活動の普及・促進	府中市スポーツ推進委員会や府中市体育協会を始めとした各スポーツ団体等の活動を支援するほか、指導者やボランティアなどのスポーツを支える人材の育成等を図る。また、スポーツに対する関心を高めるための啓発や情報発信などの取組を進める。
16-2	スポーツ活動機会の充実	市民体育大会を始めとした各種スポーツ大会や、気軽に参加できるスポーツ教室やレクリエーション事業の実施を通じて、健康づくりや交流の機会の提供を行う。また、ポッチャを始め、障害者スポーツに対する理解促進や関心を高めるため、普及・啓発に取り組む。

成果指標					
	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	週1回以上スポーツをする市民の割合				目標値
推移	59.8%	59.4%			62%

評価							
令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.0						
新型コロナウイルス感染症の影響で中止等としていた、市民体育大会を始めとする各種事業について、ウィズコロナの視点により、必要な感染症対策を行いながら再開・実施したことで、市民のスポーツ実施率の低下を抑制することができた。							
課題・今後の展開	スポーツ活動を全く行っていない方が最初の一步を踏み出すきっかけがないことや、ライフステージの変化によってスポーツ活動の継続を断念する状況があること等が課題となっているため、スポーツに対する興味・関心を高めるとともに、年齢や障害の有無などに関わらず、スポーツを楽しむことができるよう、一層のスポーツ活動機会の充実に取り組む。						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の誰もがスポーツに親しむことができる機会や場の取組を進め、スポーツ活動に関する実績が上がっていることは大きな成果である。今度も障害者スポーツを含めた多様な事業展開を期待する。（小林） ●市民の誰もがスポーツ活動に参加できる「スポーツタウン府中」を目指す取組を評価する。学校教育との関連では、部活動の地域移行・地域連携の動向の中で、運動部の部活指導者育成を視野に入れ、スポーツ活動の普及・促進を図ることを期待する。（秋山） ●市民が年齢や障害に関係なくスポーツ活動に参加できるように、生涯スポーツ体制の充実化に取り組んでいることが確認された。また、ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックの開催時に実施した市民のボランティア活動のノウハウをいかして、「スポーツタウン府中」の更なる発展につなげていることも評価されよう。（岡田） 						

事業別評価等					
16-1 地域スポーツ活動の普及・促進					
事業概要	府中市スポーツ推進委員会や府中市体育協会を始めとした各スポーツ団体等の活動を支援するほか、指導者やボランティアなどのスポーツを支える人材の育成等を図る。また、スポーツに対する関心を高めるための啓発や情報発信などの取組を進める。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	スポーツ推進委員の人数(各年度4月1日時点)				
	22人	21人			
実績値2	体育団体活動事業補助金の対象件数及び団体数				
	<ul style="list-style-type: none"> ●体育団体活動事業補助 16団体 ●スポーツ大会参加補助 9件 ●ジュニアスポーツ活動事業補助 87団体 	<ul style="list-style-type: none"> ●体育団体活動事業補助 27団体 ●スポーツ大会参加補助 7件 ●ジュニアスポーツ活動事業補助 85団体 			
実績値3	研修会・講習会等の実施回数及び参加人数				
	ジュニアスポーツ指導者講習会 1回 延べ21人	ジュニアスポーツ指導者講習会 1回 延べ27人			
実績値4	各種大会への市代表選手の派遣人数				
	<ul style="list-style-type: none"> ●都民体育大会 5人 	<ul style="list-style-type: none"> ●都民体育大会 381人 ●東京都市町村体育大会 252人 ●都民生涯スポーツ大会 155人 ●都民スポレクふれあい大会 65人 			
実績値5	学校開放の実施校数、学校開放使用クラブ数及び利用人数				
	<ul style="list-style-type: none"> ●体育館 33校 292クラブ 97,205人 ●校庭 26校 70クラブ 94,550人 	<ul style="list-style-type: none"> ●体育館 33校 309クラブ 193,790人 ●校庭 26校 73クラブ 134,098人 ●プール 2校 1,322人 			
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた				
	<ul style="list-style-type: none"> ●府中市スポーツ推進委員会や府中市体育協会を始め、各スポーツ団体等の活動の支援等を通じて、市民が主体的に参画する地域スポーツ活動の普及・促進を図るとともに、学校施設の地域開放を行うことで、地域の身近な場所で、スポーツ活動に親しむ環境を提供することができた。 ●指導者やボランティアを対象とした研修会など、再開に至っていない事業が一部あったが、ウィズコロナの視点により必要な対策を行うことで、おおむね当初の計画どおりに各種事業を実施・再開できたことに加えて、府中第十小学校のプール開放を新たに試行実施することができた。 ●以上の理由から、B評価とする。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も、関係団体等と連携して、予定する全ての事業を計画的に実施するとともに、スポーツを支える人材の育成や協力体制の強化を図っていく。 				

事業別評価等					
16-2 スポーツ活動機会の充実					
事業概要	市民体育大会を始めとした各種スポーツ大会や、気軽に参加できるスポーツ教室やレクリエーション事業の実施を通じて、健康づくりや交流の機会の提供を行う。また、ポッチャを始め、障害者スポーツに対する理解促進や関心を高めるため、普及・啓発に取り組む。				
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	市民スポーツ大会等の事業数及び参加者数				
	<ul style="list-style-type: none"> ●市民体育大会 中止 ●スポーツ大会 1事業 延べ 124人 ●ジュニアスポーツ大会 3事業 延べ 2,226人 ●レクリエーション事業 1事業 延べ 50人 ●歩いて知ろうわがまち府中! 1事業 延べ 1,440人 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民体育大会 29種目 延べ 11,907人 ●スポーツ大会 2事業 延べ 285人 ●ジュニアスポーツ大会 6事業 延べ 3,133人 ●レクリエーション事業 4事業 延べ 2,046人 ●歩いて知ろうわがまち府中! 1事業 延べ 328人 			
実績値2	指導者派遣及びスポーツ教室等の実施回数及び参加者数				
	<ul style="list-style-type: none"> ●指導者派遣事業 7件 延べ 25人 ●スポーツ教室等(スポーツ推進委員会) 3回 延べ 64人 ●スポーツ教室等(各体育館) 795回 延べ 20,058人 	<ul style="list-style-type: none"> ●指導者派遣事業 7件 延べ 24人 ●スポーツ教室等(スポーツ推進委員会) 8回 延べ 648人 ●スポーツ教室等(各体育館) 1,437回 延べ 38,806人 			
実績値3	パラスポーツ普及啓発事業の実施回数及び参加者数				
	<ul style="list-style-type: none"> ●府中市ポッチャ大会 1回 延べ 74人 ●体験事業・出前講座等(スポーツ推進委員関係) 2回 延べ 268人 	<ul style="list-style-type: none"> ●府中市ポッチャ大会 1回 延べ 152人 ●体験事業・出前講座等(スポーツ推進委員関係) 9回 延べ 2,212人 ●体験事業・講習会等(あすチャレ!運動会他) 4回 延べ 380人 			
実績値4	スポーツタウン府中発展事業の実施回数及び参加者数				
	実績なし	女性のスポーツ機会促進イベント(ヨガイベント) 3回 延べ 130人			
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民体育大会やジュニアスポーツ大会等の開催のほか、ポッチャ大会や各種スポーツ教室等を実施することにより、多様な主体を対象としたスポーツ活動機会の充実を図ることができた。 ●再開に至っていない事業が一部あったが、ウィズコロナの視点により必要な対策を行うことで、おおむね当初の計画どおりに各種事業を再開・実施することができた。 ●以上の理由から、B評価とする。 				
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ●今後は、計画した全ての事業を着実に実施・再開することで、スポーツ活動機会の充実を図るとともに、障害者スポーツを含めた、スポーツに対する関心の喚起を図っていく。 				

取組名 17 スポーツ環境の整備

【担当課】 スポーツタウン推進課

概要 利用者が安全・安心・快適に利用できるよう体育館や屋外体育施設を管理・運営するとともに、関係課と連携して、老朽化対策を始めとした必要な施設整備等を行う。また、総合体育館の移転に向けて、現在の利用状況や市民ニーズなどの調査分析のほか、防災機能等の新たに必要となる機能の検討を行う。

目標 安全で快適にスポーツが行えるよう、スポーツ施設を整備・運営することにより、「スポーツタウン府中」として誰もがスポーツに親しむことができるまちづくりを推進する。

主な事業

No.	事業名	事業概要
17-1	スポーツ施設の整備	地域体育館の体育室に係る空気調和設備設置、市民球場の外壁等改修工事などの施設整備を行う。
17-2	総合体育館移転関連事業	老朽化に伴う総合体育館の移転に向け、現在の利用状況や市民ニーズなどの調査分析のほか、新たに必要となる機能などを検討し、整備方針等を策定する。

成果指標

	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	市内体育館（日吉体育館を除く。）における空気調和設備整備施設の割合				目標値
推移	16.7%	50.0%			100%

評価

令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.0						
課題・今後の展開	<p>多くの体育施設において老朽化が進んでおり、今後も安全で快適なスポーツ環境を維持するためには、日常的な維持管理はもとより、公共施設マネジメントの取組に基づき、施設の最適化と計画的保全などの取組が必要となるため、関係課と連携して、必要な修繕や改修などを行う。</p>						
有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の老朽化対策等への対応が求められる中、施設利用者の増加が見られることから、日々の安全点検と優先度の高い修繕・改修を進めるとともに、中長期的な整備計画を検討し、安心・安全で快適なスポーツ環境の整備をお願いしたい。（小林） ●市民にとって安全で快適なスポーツ環境であることは、市民の意欲を高める要因である。スポーツをする楽しみを感じるとともに、仲間づくりの一つの機会として機能する、充実したスポーツ環境の整備を期待する。また、民間活力の導入にも期待する。（秋山） ●全ての市民が、各自の体力や年齢・目的に応じて安全にスポーツを楽しむことができるよう、体育館や屋外体育施設の管理・運営等に積極的に取り組んでいることが高く評価される。（岡田） 						

事業別評価等					
17-1	スポーツ施設の整備				
事業概要	地域体育館の体育室に係る空調設備設置、市民球場の外壁等改修工事などの施設整備を行う。				
	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
実績値1	体育施設整備事業				
	<ul style="list-style-type: none"> ●市民球場及び陸上競技場外壁等改修工事 ●住吉庭球場改修工事 ●地域プール(4プール)及び朝日体育館解体に伴う実施設計委託 ●地域体育館体育室空調設備設置に伴う実施設計委託 ●総合体育館第一武道場改修工事等 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民球場バックネット及びライト側通路等改修工事 ●府中市民陸上競技場2階通路等改修工事 ●西府庭球場改修工事 ●地域プール(4プール)及び朝日体育館解体工事 ●総合体育館雨樋改修工事 ●本宿体育館及び白糸台体育館空調設備設置工事等 			
実績値2	野球場の延べ利用時間及び利用者数				
	<ul style="list-style-type: none"> ●市民球場 1,331時間 25,541人 ●第一野球場 4,707時間 64,958人 ●第二野球場 3,748時間 38,789人 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民球場 1,619時間 37,920人 ●第一野球場 4,761時間 62,477人 ●第二野球場 3,738時間 37,447人 			
実績値3	市民陸上競技場の延べ利用時間及び利用者数				
	<ul style="list-style-type: none"> ●貸切利用 258件 878時間 13,762人 ●団体利用 11件 39時間 300人 ●個人利用 40,382人 	<ul style="list-style-type: none"> ●貸切利用 270件 1,170時間 25,383人 ●団体利用 0件 0時間 0人 ●個人利用 37,922人 			
実績値4	庭球場の延べ利用時間及び利用者数				
	<ul style="list-style-type: none"> ●人工芝コート(12か所) 80,067時間 273,060人 ●ハードコート(1か所) 4,164時間 10,735人 ●クレートコート(1か所) 6,014時間 20,192人 	<ul style="list-style-type: none"> ●人工芝コート(12か所) 83,040時間 288,507人 ●ハードコート(1か所) 2,483時間 6,233人 ●クレートコート(1か所) 5,897時間 21,341人 			

実績値5	プールの開催日数及び延べ利用者数等			
	新型コロナウイルス感染症等の影響により開催中止	<ul style="list-style-type: none"> ●開催日数 総合プール 47日 その他のプール 38日 ●利用状況 総合プール 45,780人 市民プール 7,107人 美好水遊び広場 6,307人 西府プール 4,672人 		
実績値6	運動場の延べ利用時間及び利用者数			
	<ul style="list-style-type: none"> ●是政地区ソフトボール場 798時間 10,317人 ●是政地区一般野球場 2,372時間 15,850人 ●調布基地跡地暫定少年野球場 9,879時間 135,341人 ●是政運動広場 1,551時間 17,763人 ●小柳町運動広場 2,377時間 32,356人 	<ul style="list-style-type: none"> ●是政地区ソフトボール場 837時間 10,852人 ●是政地区一般野球場 2,411時間 16,050人 ●調布基地跡地暫定少年野球場 10,671時間 148,220人 ●是政運動広場 1,429時間 16,269人 ●小柳町運動広場 4,129時間 34,880人 		
実績値7	サッカー場の延べ利用時間及び利用者数			
	<ul style="list-style-type: none"> ●市民サッカー場 3,076時間 47,731人 ●調布基地跡地暫定少年サッカー場 6,287時間 77,240人 ●府中朝日フットボールパーク 541時間 8,905人 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民サッカー場 3,345時間 51,934人 ●調布基地跡地暫定少年サッカー場 6,886時間 83,880人 ●府中朝日フットボールパーク 3,834時間 38,100人 		
実績値8	総合体育館の延べ利用者数			
	<ul style="list-style-type: none"> ●一般公開（個人利用・指導者付一般公開を含む。） 26,770人 ●貸切利用 109,326人 ●自主事業 4,400人 	<ul style="list-style-type: none"> ●一般公開（個人利用・指導者付一般公開を含む。） 41,913人 ●貸切利用 156,578人 ●自主事業 10,441人 		
実績値9	地域体育館の利用者数			
	<ul style="list-style-type: none"> ●一般公開 56,722人 ●貸切利用 体育室 45,068人 会議室等 30,330人 ●自主事業 15,658人 	<ul style="list-style-type: none"> ●一般公開 60,164人 ●貸切利用 体育室 50,722人 会議室等 35,197人 ●自主事業 27,835人 		

評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた							
	<p>●安全で快適に施設を利用できるよう、老朽化が進む施設の整備等を図り、利用者のスポーツ活動を支援するとともに、新型コロナウイルス感染症対策を実施し、適切に施設の管理運営を行うことができた。</p> <p>●ウィズコロナの視点による必要な対策を行うことで、プールを始め、おおむね計画どおりに施設運営を実施・再開することができた。体育施設整備事業の市民球場改修工事においては、当初に予定していた工事内容を一部令和5年度以降での実施とする計画変更が生じたが、次善の結果に調整することができた。</p> <p>●以上の理由から、B評価とする。</p>							
今後の方向性	●今後も安全で快適なスポーツ環境を維持・整備するため、日常的な維持管理はもとより、関係課と連携しながら施設の老朽化対策などを計画的に進める。							
事業別評価等								
17-2	総合体育館移転関連事業							
事業概要	老朽化に伴う総合体育館の移転に向け、現在の利用状況や市民ニーズなどの調査分析のほか、新たに必要となる機能などを検討し、整備方針等を策定する。							
実績値1	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
	総合体育館を含むスポーツ施設等に関する将来の在り方の検討に向けた市民意見を聴取するイベント等への協力回数							
	5回	8回						
評価・評価の理由	B 事業を予定通り実施できた							
	<p>●総合体育館を含めた文化・スポーツ施設の将来の在り方を検討するため、関係課が中心となって実施した施設の現状分析やワークショップ等に必要な協力を行うことができた。</p> <p>●イベントの開催時などを捉え、市民意見等を聴取することで、総合体育館の移転等を検討するに当たっての参考とすることができた。</p> <p>●以上の理由から、B評価とする。</p>							
今後の方向性	●今後も関係課と連携して、市民や関係団体との意見交換等を実施する機会を捉えて、市民ニーズ等の把握に努める。							

取組名 18 トップチーム等との連携

【担当課】 スポーツタウン推進課

概要 市内を拠点とするトップチーム等の活動を支援するほか、試合観戦やイベント等への参加を通して、多くの市民がトップチーム等を身近に感じ、応援できる機会の提供を行う。また、トップチーム間の連携を図るための仕組みづくりの検討を進め、トップチームとの協働により、スポーツ振興や市内スポーツ人口の裾野の拡大などを図る。

目標 トップチームやアスリートとの触れ合いのほか、その活躍を楽しめる環境を整えるとともに、トップチーム等との連携を通じて、スポーツ振興やスポーツの力をいかしたまちづくりを推進する。

主な事業

No.	事業名	事業概要
18-1	ラグビーのまち府中推進事業	ラグビーのまち府中推進委員会を中心に、東芝及びサントリー両チームと連携して、各種事業の企画・運営のほか、ラグビーを活用したまちづくりの推進を図る。また、ホストエリアの近隣市と緊密な連携を図りながら両チームとともに各種取組を行う。
18-2	トップチーム等連携事業	市内を拠点に活動するトップチームとの協働により「ボールふれあいフェスタ」等の各種事業を実施するほか、トップチームと連携して、市内スポーツ人口の裾野の拡大、地域における一体感の醸成のほか、にぎわいの創出に向けた取組を行う。

成果指標

	令和3年度（基準値）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指標名	市内を拠点に活動するトップチームの試合や練習を観戦した市民の割合				目標値
推移	(令和元年度) 29.0%	28.20%			33.60%

評価

令和4年度の評価	B	取組を予定通り実施できた					
	2.0						
課題・今後の展開	ラグビーチームのみならず、競技の枠を超えたトップチーム間の連携の枠組みとしてトップチーム連絡会を立ち上げ、各トップチームと連携して様々な取組を実施したことにより、各種事業の充実を図ることができたほか、スポーツを通じた交流やにぎわいの創出を図ることができた。						
有識者意見	<p>トップチームと連携して進めてきたこれまでの取組を整理し、スポーツ振興にとどまらず、地域課題の解決等にも資するように今後の取組の方向性を明確にするとともに、連携体制の更なる強化や事業の発展を図る必要があるため、トップチーム連絡会を中心に、プロジェクトの実行体制の確立を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会の力を活用したトップチーム等との連携は、市民のスポーツへの関心を高めスポーツ人口の拡大の機会となり、「スポーツタウン府中」の発展に寄与するものと考え。トップチーム等との連絡会を充実させ、多様な事業展開を期待する。（小林） ● トップチーム等との連携は、府中の大きな魅力である。学校教育においても一流のアスリートとの出会いを積極的に推進していくことを期待する。スポーツタウン府中として、スポーツの様々な取組がダイナミックに展開されることを期待する。（秋山） ● 府中に拠点を置くラグビーを始めとするトップクラスのスポーツチームの活動を支援し、また市民の試合観戦やイベント等への参加を推進していることは高く評価される。これからも「ボールふれあいフェスタ」等の事業やトップチームとの連携を通じて、地域のスポーツ活動を更に活性化させていくことを期待したい。（岡田） 						

事業別評価等						
18-1 ラグビーのまち府中推進事業						
事業概要	ラグビーのまち府中推進委員会を中心に、東芝及びサントリー両チームと連携して、各種事業の企画・運営のほか、ラグビーを活用したまちづくりの推進を図る。また、ホストエリアの近隣市と緊密な連携を図りながら両チームとともに各種取組を行う。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	ラグビーに係る取組の事業数及び参加者数					
	●東芝・サントリー練習 試合市民等招待 1回 560人 ●府中ダービープレマッ チ市民等招待 1回 700人	●東芝・サントリー練習 試合市民等招待 2回 延べ 1,200人 ●パブリックビューイン グ 3回 延べ 600人 ●ラグビーのまち府中 デー 1回 1,000人				
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <p>●ラグビーのまち府中推進委員会を中心に、東芝及びサントリー両チームと連携した取組や、ホストエリアの近隣2市と連携した事業を実施し、ラグビーをいかしたまちづくりの推進を図ることができた。</p> <p>●ウィズコロナの視点による必要な対策を行うことで、おおむね当初の計画どおりに各種事業を実施・再開できた。</p> <p>●以上の理由から、B評価とする。</p>					
今後の方向性	●令和5年度は、ラグビーワールドカップ2023がフランスで開催されるため、これを好機と捉え、ラグビーのまち府中の更なる発展につながる事業を計画的に進める。					
18-2 トップチーム等連携事業						
事業概要	市内を拠点に活動するトップチームとの協働により「ボールふれあいフェスタ」等の各種事業を実施するほか、トップチームと連携して、市内スポーツ人口の裾野の拡大、地域における一体感の醸成のほか、にぎわいの創出に向けた取組を行う。					
実績値1	令和3年度(基準値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	トップチーム等と庁内関係部署が連携して実施した事業数					
	実績なし	50件				
実績値2	トップチーム等とスポーツタウン推進課が連携して実施した事業数及び参加者数					
	●ボールふれあいフェスタ 中止	●ボールふれあいフェスタ 1事業 1,673人 ●FC東京連携スポーツ イベント 3回 延べ 102人 ●パブリックビューイング(サッカー男子日本代表) 1回 延べ 400人				
評価・評価の理由	<p>B 事業を予定通り実施できた</p> <p>●ケヤキ並木通りに場所を変更して初めて実施したボールふれあいフェスタでは、多くの方にトップチームの魅力を感じていただくとともに、チームとの連携をPRすることで、スポーツタウン府中の魅力を発信することができた。</p> <p>●小学校への訪問授業の実施を始め、庁内関係課と連携した取組を実施することができた。</p> <p>●ウィズコロナの視点による必要な対策を行うことで、おおむね当初の計画どおりに各種事業を実施・再開できた。</p> <p>●以上の理由からB評価とする。</p>					
今後の方向性	●今後は、トップチーム連絡会を中心に、トップチームとの更なる連携体制の強化を図り、スポーツタウン府中の発展に向けた各種取組を進めることで、スポーツ振興や市内スポーツ人口の裾野の拡大等につなげる。					

1 学校教育について

令和4年度から新たに「未来へつなぐ府中2020レガシー」として、共生社会の実現に向けた教育活動を進めていることは高く評価できる。教育活動の質的向上や課題対応は多岐にわたるが、これまでの施策の継続とともに新たな事業展開等、新しい時代に求められる資質・能力の育成の実現を目指した取組がうかがえる。学力向上プロジェクトチームによる授業改善に向けた視点の共有を図ることで、教員の実践的指導力を高め、児童・生徒の学力向上につながると考える。また、9年間を見通した宿泊体験学習についての意義や目的等を踏まえた系統的な指導は、児童・生徒の学びを広げ深める場となり、実施に当たってはその地域ならではの体験をいかした活動となるよう期待する。「わくわく英語体験ツアー」に加え、英語体験型施設(TGG)の活用成果を期待するとともに、英語科学習と関連させていくことが重要と考える。

学校施設の整備・老朽化対策については、安心・安全でより良い教育環境の確保と、多様な学習活動の展開を可能とする施設づくりを検討していただきたい。

2 社会教育について

社会教育においても、施設の改修や図書館情報システムの更新等の課題に対して、市民生活への影響を最小限に抑えて事業運営を継続できたことは良かったと考える。市民生活を豊かにするためにも、様々な文化・芸術に触れる機会を提供していくことは重要であり、市民ニーズや地域課題に対応した魅力ある柔軟な企画・運営を期待したい。

生涯学習センターの役割も大きく、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、講座受講者数が前年度を上回ったのは成果であり、市民の期待がうかがわれる。今後も地域社会と連携し、様々な世代への対応と子育て支援につながる事業運営をお願いしたい。

「スポーツタウン府中」の発展に向けて、各スポーツ団体等への支援や各種大会等の実施は、スポーツへの関心を高めるとともにスポーツを通じた市民交流の重要な機会や場になると考える。また、トップチームやアスリートとの触れ合いは、スポーツへの関心を高めるとともに、その生き方・人間性に触れる機会でもあり、青少年にとって自己の生き方を考えるきっかけともなるのではないだろうか。

1 学校教育について

第3次府中市学校教育プランの基本理念に基づき、社会情勢の変化や教育課題に対応した府中市としての多様な教育活動が展開されていると捉えた。広報「ふちゅうの教育」の発行やホームページでの分かりやすい広報の工夫により、市民に向けた「見える化」が進んでいる点も評価したい。

一つ一つの取組は魅力的であり、府中の教育の特色が見える。児童・生徒が人間性豊かな成長を目指し、積極的に学ぶ姿が期待される場所である。今後は、それぞれの教育活動において児童・生徒の学びの伸びや育ちにどのような変化が表れるか、その実態把握を丁寧に行い、効果的に事業を進めていく必要があると考える。

また、子供たちにとっては日常の学校生活が基本である。安全で快適な環境整備を始め、日々の授業内容の質の向上や教育支援に関わる人的な整備の充実が問われる。これらを踏まえ、堅実で有効な予算化による事業が進められることを期待する。

2 社会教育について

各学校で取り組んでいる「未来へつなぐ府中2020レガシー」が、府中における生涯学習の入口になり、生涯にわたっての豊かな市民生活に結びついていくことを期待したい。学校教育と社会教育との円滑な接続が、多くの市民の「生涯学習」への興味・関心を高めていくものと考えている。

府中の特色を明確にした様々な文化・芸術・スポーツ活動は、市民の誇りとなって継続され、地域力を高めていくものと捉えている。

各事業の実施においては、各分野における民間活力を活用した事業の試みは大変興味深く捉えた。また、「スポーツタウン府中」の魅力の一つであるトップチーム等との連携事業は、学校の教育活動との連携、にぎわいのあるまちづくり、各事業所との連携による民間活力の導入等、様々な取組が期待できる府中市の強みであり、丁寧にかつダイナミックに推進されることを期待する。

1 学校教育について

少子化、高齢化、IT化、グローバル化などが急速に進む現代社会では、人々は生涯を通じて自己学習と継続的な思考力、また豊かな人間性を身に付けることが求められている。府中市では、このような状況に対応するために様々な教育的取組に関する情報の提供や市民の学習活動を支援している。

学校教育においては、最新のICT教育の導入、特別支援教育の充実化、また老朽施設の整備など、児童・生徒の学習環境が改善されることで、より快適で効果的な学びの場が提供されている。

今後も府中の市民が様々な教育活動を通して自律的・健康的に生きていける社会の実現を目標として、教育相談や支援など、地域の教育課題の解決に役立つ教育事業の推進が期待されている。

2 社会教育について

府中市は市民の日常の教育活動を支援するため公民館や図書館、民間企業等の関連施設・団体と連携し、学習情報の提供や種々のイベントを実施している。

中央図書館のリニューアルオープン、郷土の森博物館や府中市美術館の有効活用など地域文化の振興を図り、市民の郷土愛の増進に寄与するとともに、地域連帯意識の高揚に資するための取組は極めて重要である。

また、府中市は市民向けの健康増進プログラムやスポーツイベントも実施している。「ボールふれあいフェスタ」事業やラグビートップチームとの連携を通じて、市民の健康的なライフスタイルの推進に努めている。このような社会教育と取組は、市民のWell-being（ウェルビーイング：健康と幸福）と共生を支える重要な要素であるため、今後も継続してこのような社会教育機会の充実化が求められる。

(資料) 府中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の実施に関する要綱

(目的)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、府中市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が自らの権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施するために必要な事項を定めることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図ることを目的とする。

(点検及び評価の対象)

第2条 教育委員会が点検及び評価の対象とする取組は、府中市総合計画及び教育委員会の策定した教育振興基本計画に示す施策等とする。

(点検及び評価の実施)

第3条 点検及び評価は、前条の取組について、前年度の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性を示すものとし、毎年1回実施するものとする。

(学識経験者の知見の活用)

第4条 教育委員会は、点検及び評価の客観性を確保し、教育に関し学識経験を有する者（以下「有識者」という。）の知見の活用を図るため、点検・評価に関する有識者の意見を聴取しなければならない。

- 2 有識者の定数は、3人以内とし、教育委員会が委嘱する。
- 3 有識者の任期は、3年とし、再任されることを妨げない。
- 4 有識者が欠けた場合における補充の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 教育委員会は、有識者に予算の範囲内で謝礼を支払う。

(議会への報告及び公表)

第5条 教育委員会は、点検及び評価に関する報告書を作成し、府中市議会へ提出しなければならない。

- 2 教育委員会は、作成した点検及び評価に関する報告書を公表しなければならない。

(雑則)

第6条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、教育長が別に定める。

付 則

- 1 この要綱は、平成20年12月18日から施行する。
- 2 この要綱の施行日から平成21年3月31日までの間に、第4条第2項の規定に基づき有識者として委嘱を受けた者の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

付 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

令和4年度における府中市教育委員会の権限に属する
事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に係る報告書

発行日 令和5年7月

編集・発行 府中市教育委員会

〒183-8703 東京都府中市宮西町2丁目24番地

連絡先

電話 042-364-4111 (代表)

042-335-4424 (教育総務課)

FAX 042-334-0946
